

又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス
第四條 豫算各項ノ金額ハ郡參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スル
コトヲ得

第五條 郡出納吏ニ於テ現金ノ出納ヲ要スルモノ及繰替拂ハ知
事ノ認可ヲ經テ郡長之ヲ定ム

第六條 郡出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ郡長又ハ郡長ノ
命シタル検査員ニ於テ毎年一回之ヲ検査ス

第七條 郡出納吏解職セラレタルトキハ郡長又ハ郡長ノ命ニ依
リ検査員ニ於テ現金及帳簿ヲ検査ス

第八條 郡ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲郡役所々在地ニ郡金
庫ヲ置ク

第九條 郡金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキモノハ郡長之ヲ定ム

第十條 郡金庫事務ノ取扱ヲ爲スモノハ現金出納保管ニ付キ責
任ヲ有ス

第十一條 郡金庫事務ノ取扱ヲ爲スモノハ擔保ヲ郡長ニ提出ス
ヘシ其ノ擔保ハ取扱金額以上ノ國債證券地方債証券若ハ日本

銀行日本興業銀行日本勸業銀行橫濱正金銀行福井縣農工銀行
其ノ他知事ノ認可ヲ經郡長ノ定メタル銀行會社ノ株券債券ニ
限ル

第十二條 郡長ハ郡金庫ヲ監督シ検査員ヲシテ定期及臨時ニ現
金帳簿ヲ検査セシメ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲ス
コトヲ得

第十三條 本規定ノ外郡ノ財務ニ關シテハ明治三十三年三月内
務省令第七號及本縣會計規則ヲ準用ス

第十四條 本規定ノ細則ハ知事ノ認可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第十五條 本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス

郡會議員選舉取扱手續ニ關スル件

一八二

郡會議員選舉取扱手續ニ關スル件

大正四年八月
訓令第一四號

第一條 選舉人名簿、投票函、選舉會場設備、投票函開閉ノ順

序等ハ縣會議員選舉ノ例ニ依ルヘシ

第二條 町村長ハ左ノ事項ニ就キテ告示ヲ發シタルトキハ直ニ

郡長ニ報告スヘシ

一 郡制第十二條ニ依リ選舉會場ヲ町村役場以外ノ場所ニ指

定シタルトキ

一 郡制第二十七條ニ依リ異議ノ決定書ヲ交付シタルトキ

第三條 選舉錄、投票簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ

附 則

明治三十二年六月福井縣訓令第三十二號ハ之ヲ廢止ス

選舉錄様式

某町村某郡會議員總選舉(補闕、増員選舉)會選舉錄

一 某郡會議員總選舉(補闕、増員選舉)ニ付議員若干人選舉

ノ爲選舉會場ヲ本町村役場(又ハ何ノ場所)ニ設ケタリ

二 左ノ選舉立會人ハ就レモ選舉會開會ノ時刻迄ニ選舉會場

ニ參會シタリ

氏 名

氏 名

氏 名

選舉會開會ノ時刻ニ至リ選舉立會人中何名參會セサルニ

依リ町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ左ノ者ヲ選舉立會人ニ

選任シタリ

氏 名

三 選舉會ハ大正何年何月何日午前(午後)何時ニ之ヲ開キタ

リ

郡會議員選舉取扱手續ニ關スル件

一八三

四

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ニ先チ選舉會場ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ選舉長及選舉立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

五

選舉長ハ選舉立會人ノ列席スル面前ニ於テ選舉人ノ住所氏名ヲ選舉人名簿ニ對照シ投票簿ニ捺印セシメタル後到著番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付シタリ

六

選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙選舉立會人ハ二名(又ハ

氏名

選舉立會人中氏名ハ一旦參會シ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙選舉立會人ハ二名(又ハ

七

三名)在リ而モ町村長ニ於テ其ノ闕員ヲ補フノ必要ナキニ至レルヲ認メ特ニ其ノ補闕ヲ爲ササル旨ヲ宣言シタリ左ノ選舉人ハ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定裁決書(又ハ判決書)ヲ所持シタルニ依リ之ヲシテ投票セシメタリ

八

左ノ選舉人ハ何々ノ事由ニ依リ選舉立會人(又ハ可否同數ナルカ爲選舉長)ノ議決(又ハ決定)ニ基キ其ノ投票ヲ拒否シタリ

氏名

九

左ノ選舉人ハ誤テ投票用紙ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙ヲ交附シタリ

氏名

十

午前(午後)何時ニ至リ選舉長ハ投票時間ヲ終リタル由ヲ

氏名

十 告ケ選舉會場ノ入口ヲ閉鎖シ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十一 選舉長ハ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票數ト投票人數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數 何票
投票人總數 何人

八 投票ノ總數ト投票人ノ總數ト符合セリニ其ノ其ハ對票ト投票ノ總數ト投票人ノ總數ト符合セス

十二 選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢シ有効又ハ無効ト決定シタル投票左ノ如シ

有効投票 何票
無効投票 何票

六五 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ 何票

十三 有効投票ノ内得票者ノ氏名及其ノ得票數左ノ如シ

何票 何氏
何票 何氏

十四 右ノ内有効投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何名ヲ以テ當選者トス

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數同シキニ依リ其ノ出生年月日ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何

郡會議員選舉取扱手續ニ關スル件

日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ則チ氏名ヲ以テ當選者トス(又ハ同年月日ナルヲ以テ選舉長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當選セリ依テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ)

十四 選舉長ハ投票ノ有効無効ヲ區別シ各別ニ之ヲ括束シ更ニ之ヲ封筒ニ入レ選舉投票人ト共ニ之ヲ封印シタリ

十五 左ノ者ハ選舉會場ノ事務ニ從事シタリ
職 氏 名
職 氏 名

十六 選舉會場ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官 職 氏 名

十七 午前(午後)何時選舉事務ヲ了シ選舉會ヲ閉チタリ
選舉長ハ此ノ選舉録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上選舉立會人ト共ニ茲ニ署名ス
大正何年何月何日

選 舉 長
某町村長 氏 名
選舉立會人 氏 名

備考

- 一 書式ニ掲クル事項ノ外選舉長ニ於テ選舉ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 二 選舉分會ヲ設クルトキハ此ノ書式ニ準スヘシ但シ分會ノ選舉ニ在リテハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘキヲ以テ開票ニ關スル事項ハ固ヨリ之ヲ記載スヘキニ非ス

投票簿様式 (用紙適宜)

選舉人名簿番號	氏	名
郡會議員選舉取扱手續ニ關スル件		一八九

郡會議員選舉取扱手續ニ關スル件
郡會議員選舉報告ノ件

一九〇

第一號	何 某 印
第二號	、 、 、

備考

一 投票簿ヲ選舉人名簿ノ番號順序ニ依ラス便宜「イロハ」順ト爲スモ妨ナシ

郡會議員選舉報告ノ件

明治三十三年二月
訓令 第一二號

郡會議員ノ選舉ヲ行フトキハ其告示ヲ發スルト同時ニ之ヲ知事ニ報告ス可シ

郡會議員議長副議長郡參事會員當

選異動報告ノ件

明治三十二年九月
訓令 第五四號

郡會議員及郡會議長副議長郡參事會員ノ選舉ヲ行ヒタルトキハ選舉終了後郡會議員ハ當選証書交付後五日以内ニ當選者ノ住所氏名郡會議員當選者報告ニハ其選舉

ノ名ヲ記テ記載シ報告スヘシ區載ス

郡會議長副議長郡參事會員及郡會議員ノ退任死亡失職等ノ異動アリタルトキハ其時々氏名及事故ヲ記載シ報告スヘシ

郡公債許可申請ニ關スル件

明治三十一年四月
訓令 第二四號

郡制第六十四條ニ依リ不得已事業ノ爲メ起債ヲ爲サンコトヲ議決シ認可稟請ヲナスニ當テハ起債及償還ノ方法ハ勿論償還ノ財源及其負擔ノ堪否等精覈調査ヲ遂ケ起債ノ方法利息ノ定率償還ノ方法ニ關スル議決書及明治二十六年月十二本縣訓令第四十號ニ

郡會議員議長副議長郡參事會員當選異動報告ノ件
郡公債許可申請ニ關スル件

一九一

準シ夫々其參照事項ヲ記載シ稟申スヘキ義ト心得ヘシ

●郡市役所事務報告例

明治三十一年六月
訓令 第三二號

第一條 報告例ハ本縣ノ令達ニ依リ郡市役所ヨリ縣廳ヘ報告スヘキ事項及令達ナキモ將來報告ヲ須要トスル事項ヲ蒐集シ其報告順序ヲ示スモノナリ 但金錢物品ハ收支出納ニ關スル報告ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 報告ヲ分テ豫報、即報、月報、半年報、年報ノ五種トス

豫報ハ其事件ノ生セサル前豫メ報告スルモノトス
即報ハ其事件ノ生シタル即日又ハ指定ノ期限内ニ報告スルモノトス

月報ハ毎月半年報ハ每半年、年報ハ毎年又ハ數年ニ各一回例目ノ下段ニ指定シタル期限ニ報告スルモノトス

第三條 報告事項ハ適宜ノ資料ニ據リ調製スヘシ 但郡役所所轄内町村ニ就キ調査ヲ要スル事件ニシテ町村役場事務報告例ニ掲クルモノハ町村長ノ報告ニ據リ其實事ヲ採取スヘシ

第四條 報告期限ハ從前成規アルモノト否ラサルトヲ問ハス總テ本例ニ於テ指定シタル期日マテニ發送スヘシ 但シ半年報及年報ニ限リ事實ナキモノハ其ノ旨期日マテニ報告スルヲ要ス

即報ノ事項中特ニ指命シタルモノ及非常事件ハ電信又ハ急使ニテ報告スヘシ

第五條 報告書式ハ別紙雛形ニ依リ一事件又ハ一表毎ニ紙頁ヲ改メ紙末表ノ尾又ハ冊尾ノ適宜ノ所ニ於テ年月日宛名ヲ記シ郡市長署名捺印スヘシ 但例目中部類ニ屬スルモノニ件以上同時ニ報告スルトキニ限リ纏メテ一括トシ紙頁ハ之ヲ改ム目錄ヲ附シ其年月日宛名署名調印ハ目錄紙ノ末ニ於テスルモ

- 妨ケナシ然ルトキハ一事件又ハ一表毎ニ之レヲ爲スニ及ハス
- 第六條 諸表中全ク登記スヘキ事實ナキモノハ其欄内ニ縦線ヲ施シ又掲載スヘキ事實ニシテ調査未了若ハ不詳ノモノアルトキハ「？」ヲ填充シテ脱漏ニアラサルヲ證スヘシ
- 第七條 諸表様式ハ已ニ頒布ノモノト雖モ執務者ノ便ヲ圖リ茲ニ彙集シテ本例ニ編入ス若シ今後令達ニ依リ改正ヲ來スヘキコトアルトキハ延テ本例ニ及フモノトス
- 第八條 今後新ニ發スルトコロノ令達ニ於テ期限ヲ定メ報告ヲ要スル旨ヲ記載シタルモノハ其報告ノ種類ニ依リ此例目中ニ追加シタルモノト看做スヘシ
- 第九條 數位ヲ以テ記入スル事實ニシテ前年ト比較シ著シキ増減アルモノハ其事由ヲ表尾ニ附記シ且一位ニ「●」印ヲ付シ其右傍ニ圓、石、坪、段、町、貫等ノ文字ヲ記載スヘシ
- 第十條 従前ノ本縣令達中内訓、内達、特達ハ之ヲ除ク本例目ニ

掲載セサルモノハ總テ報告ニ及ハス 但異例又ハ重要ノ事項ハ此限ニアラス

議事部

即、山報

(参照條項省略ス)

- 一 市歳入歳出豫算及決算
- 一 市會議決事項
- 一 市會議員選舉ノ結果
- 一 水利組合歳入歳出豫算及決算
- 一 公債ノ借入及償還
- 一 郡歳入歳出豫算及決算 (財産表 添附)
- 一 郡會議決事項
- 一 郡會議員選舉執行ノ告示
- 一 郡制第二十七條ノ告示 (全文)

郡市役所事務報告例

郡會議員郡會議長副議長郡參事會員當選者及其異動

郡會議員選舉被選舉調 總選舉後二十日以内

府縣制第十二條第一項ニ依ル異動申立ニ對スル決定及同

條第六項ノ告示 (全文)

府縣制第二十三條ニ依リ縣會議員選舉會場ヲ郡市役所以

外ニ指定シタル場所

縣會議員當選人名

縣會議員選舉被選舉調

總選舉後二十日以内

衆議院議員選舉法第二十四條ニ依ル告示

衆議院議員選舉法第二十五條ノ訴訟アリタルトキ其ノ不

服ノ理由

衆議院議員選舉人名茲ニ記載セラレタル者ノ總數

衆議院議員選舉法施行令第二條ニ依リ郡長ニ於テ指名シ

タル投票管理者名

衆議院議員選舉法施行令第二條第三條ニ依リ郡長ニ於テ

管理者ヲ指名シタル告示

衆議院議員選舉投票所及開票所ノ事務ニ從事スル官吏吏

員名并其ノ異動

市ニ於ケル衆議院議員選舉投票所ノ所在構造裝置坪數

衆議院議員選舉調

選舉後二十日以内

水利組合議員選舉ノ結果

年 報

市町村會議員選舉調 三月三十一日

市町村納稅成績表 四月三十日

市町村基本財産調 八月三十一日

郡有財産調 八月三十一日

市町村稅其他滯納處分調 八月三十一日

水利組合費滯納處分調 (表式ハ第五表ニ準シ普通水利組合)
ト水害豫防組合トナ區別スヘシ

八月三十一日

町歳計豫算決議書

四月三十日

市基本財産并積立金穀市有不

四月三十日

動産及一部一區ノ財産異動

町村歳入歳出豫算(決算)表

豫算通常
追加更正
決算

四月三十日
翌年度四月三十日
翌々年度四月三十日

水利組合歳入歳出豫算(決算)表

豫算通常
追加更正
決算

四月三十日
翌年度四月三十日
翌々年度四月三十日

庶務部

豫報

市吏員事務受渡期日

即報

郡令

市町村长市參與市町村助役收入役副收入役ノ退任及死亡

市長市參與市助役市收入役副收入役法令ノ規定ニ依リ七

日以上旅行スル場合ノ其ノ發程歸著

市町村吏員懲戒處分

市助役副收入役等分掌事務ノ減少又ハ解除

市吏員事務ノ受渡結了

町村巡視ノ成績及町村ノ狀況

町村其ノ他公共團體出納檢閲ノ成績

郡役所處務細則

郡役所事務ノ分課及分掌項目

郡長事務受渡結了

民事訴訟ノ判決ニ依リタル字名ノ訂正又ハ其ノ區域ノ變

更

郡會招集告示

町村ニ強制豫算ヲ命シタル處分
町村長助役收入役ノ臨時代理者又ハ職豫管掌者ヲ命シタル處分

棄兒養育米支給

窮民恤救者棄兒養育者異動

月報

郡市内ニ發シタル諸令達告示

主務省又ハ本縣並縣參事會ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル事件法令等ニ依リ報告スヘキ事件其ノ他郡令及郡會招集閉會、告示ヲ除ク

每月五日

年報

郡市町村吏員

郡市町村吏員退隱料受領人員及金額

二月二十八日

二月二十八日

濟貧恤窮施行

養育ニ係ル棄兒

行旅病人

行旅死亡人

救濟事業ノ一

救濟事業ノ二

救濟事業ノ三

翌年 一月三十一日

翌年 一月三十一日

翌年 一月三十一日

翌年 一月三十一日

翌年 四月二十日

翌年 四月二十日

翌年 四月二十日

(報告様式省略)

縣會議員選舉ニ關スル立會人費用

支給規則

明治四十二年一月
縣令 第四號

第一條 縣會議員選舉投票立會人及選舉立會人職務ノ爲要スル費用ハ本規則ニ依リ支給ス

郡市役所事務報告例
縣會議員選舉ニ關スル立會人費用支給規則

第二條 前條職務ノ爲要スル費用ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ五種トシテ其ノ額ハ別表ニ依ル。但シ立會人其ノ居住スル投票區域内ニ於テ特ニ宿泊ヲ要シタル場合ノ宿泊料ハ別表ノ半額トス。

第三條 鐵道賃、船賃、車馬賃、ハ立會人其居住地ヨリ投票區域外ニ旅行スル場合ニ限リ順路ニ依リ哩數、海里數、又ハ里數ニ應シ支給ス。

日當ハ旅行又ハ職務ニ從事シタル日數ニ應シ宿泊料ハ旅行中又ハ特ニ職務地ニ宿泊ヲ要シタル夜數ニ應シ支給ス。

第四條 鐵道賃、船賃、車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス。但シ一位未滿ノ端數ハ切捨トス。

(別表)

鐵道賃	二	哩	船賃	一	海里	車馬賃	二	里	日當	二	日	宿泊料	二	夜
-----	---	---	----	---	----	-----	---	---	----	---	---	-----	---	---

參	錢	參	錢	拾	錢	貳	拾	錢	一	六	拾	錢
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

●縣會議員選舉事務取扱手續

大正四年八月
訓令第一三號

第一條 選舉人名簿用紙、投票錄用紙、選舉錄用紙及投票用紙ハ縣廳ヨリ郡市長ニ送付ス。郡長ハ更ニ町村長ニ配付スヘシ。

市町村長ハ投票終了後直ニ投票用紙ノ使用報告書(元受、使用、汚損、殘餘ノ數ヲ)ヲ作り殘餘用紙ヲ添へ市長ハ縣廳ニ町村長ハ郡長ニ提出シ郡長ハ更ニ該使用報告書ヲ作り殘餘用紙ト共ニ縣廳ニ提出スヘシ。

第二條 縣會議員選舉ノ告示アリタルトキハ市町村長ハ選舉人名簿中住所氏名ノ異動及死亡又ハ選舉權ヲ有セサルニ至リタ

縣會議員選舉事務取扱手續

110111

ル者ヲ調査シ名簿ニ附箋ヲ爲シ其ノ事項ヲ明瞭ナラシムベシ
町村長ハ選舉期日十五日前迄ニ前項ノ事項ヲ郡長ニ報告シ爾
後選舉期日迄ニ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
郡長ハ前項ノ報告ニ基キ選舉人名簿ニ附箋ヲ爲シ其ノ事項ヲ
明瞭ナラシムヘシ

第三條 町村長ハ縣會議員選舉期日一箇月前ノ現在ニ依リ選舉
期日十日前迄ニ選舉事務ニ關係アル吏員ノ職氏名ヲ郡長ニ報
告シ爾後選舉期日迄ニ異動アルトキハ其ノ時時即報スヘシ

第四條 投票所ヲ市役所又ハ町村役場以外ニ設クルトキハ可成
門戸アル場所ヲ選定スヘシ

前項ノ投票所ヲ告示シタルトキハ直ニ市ハ知事ニ町村ハ郡長
ニ報告スヘシ

第五條 數町村ノ區域ニ依リ一投票所ヲ設ケタル場合ニ於テ投
票所ノ告示ヲ爲スニハ各町村ノ公告式ニ依ルヘシ

第六條 投票所ハ衆議院議員投票所ノ例ニ準シ設備スヘシ

第七條 市町村長其ノ他投票管理者ハ少クトモ選舉期日五日前
迄ニ投票所入場券ヲ各選舉人ニ配付シ選舉ノ當日投票所ニ於
テ到着番號札ト引換ニ入場セシムヘシ

第八條 投票立會人及市ノ選舉立會人ハ豫メ之ヲ選任シ選舉期
日又ハ選舉會開會ノ期日前本人ニ通知スヘシ
投票立會人及選舉立會人中當日參會セス又ハ參會スルモ中途
定數ヲ闕ク場合アルニ方リ之カ補闕ニ差支ナキ様豫メ相當措
置スヘシ

投票立會人及選舉立會人一旦參會シ中途定數ヲ闕クモ最少法
定數ヲ下ラス且其ノ闕員ヲ補フノ必要ナキニ至レルモノト認
ムルトキハ特ニ其ノ補闕ヲ爲ササルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ郡市町村長其ノ他投票管理者ハ其ノ旨ヲ宣言スヘシ

第九條 市町村長其ノ他投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ

投票所ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空
虚ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖スヘシ

第十條 投票用紙ハ市町村長其ノ他投票管理者及投票立會人ノ
面前ニ於テ選舉人ノ住所氏名ヲ選舉人名簿ニ對照シ相違ナキ
ヲ認メタル後之ヲ交付スヘシ

選舉人誤テ投票用紙ヲ汚損シタルトキハ引換ニ之ヲ交付スヘ
シ

投票前選舉人自ラ投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命シタルトキ
ハ一旦交付シタル投票用紙ハ之ヲ返還セシムヘシ

第十一條 投票ハ投票記載所ニ於テ記載セシメ選舉人ヲシテ自
ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

選舉人投票ヲ終リタルトキハ順次退出セシムヘシ

第十二條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ市町村長其
ノ他投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖スヘシ

投票所ニ在ル選舉人ノ投票ヲ終リタルトキハ市町村長其ノ他
投票管理者ハ直ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖スヘシ
投票函ヲ閉鎖シタルトキハ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投
票立會人ヲシテ之ヲ保管セシメ外蓋ノ鑰ハ町村長其ノ他投票
管理者之ヲ保管スヘシ

市町村長其ノ他投票管理者ハ投票函ノ鎖及鑰ヲ封緘シ投票立
會人ト共ニ封印ヲ爲スヘシ

第十三條 投票函閉鎖ノ後ハ町村長其ノ他投票管理者ハ嚴重ニ
之ヲ保管シ選舉會場ニ送致スル迄ノ間之ヲ投票所外ニ轉送ス
ルコトヲ得ス

投票函、投票録又ハ選舉人名簿ヲ市町村長ノ管理スル投票所
又ハ選舉會場ニ送致スヘキ投票立會人ノ數ハ一人トス

第十四條 投票函(鑰共)到達シタルトキハ郡市町村長ハ之ヲ檢
シテ受領スヘシ其ノ異狀アルモノニ付テハ其ノ事由ヲ証明セ

シムヘシ

郡市長ハ投票函ノ到達順序ニ依リ番號ヲ附シ置キ選舉會ヲ開クニ至ル迄ノ間嚴重ニ之ヲ保管スヘシ

第十五條 選舉會場ハ區劃ヲ定メ適宜之ヲ設備スヘシ

選舉會場ハ郡市役所以外ノ場所ニ指定スルトキハ其ノ告示ヲ發スルト同時ニ知事ニ報告スヘシ

第十六條 選舉人參觀ヲ求ムルトキハ其ノ氏名ヲ選舉人名簿ニ照合シタル後參觀券ヲ交付シ入場セシメ退場ノトキハ其ノ參觀券ヲ返付セシムヘシ

第十七條 選舉長ハ投票函到達順序ニ依リ逐次投票函ヲ開キ一函毎ニ投票ノ數ト投票人ノ數トヲ計算シ之ヲ投票數調査表ニ記入シテ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第十八條 選舉長前條ノ調査ヲ了リタルトキハ選舉立會人ト共ニ一函毎ニ投票ヲ點檢シ有効無効ヲ決定スヘシ

有効投票ハ選舉長又ハ選舉事務ニ従事スル者ニ於テ投票所毎

ニ被選舉人ノ得票ヲ朗讀シ選舉事務ニ従事スル者ヲシテ各別

ニ被選舉人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ但シ點數簿ニ

記入スルトキハ朗讀ニ相對シテ一々其ノ被選舉人ノ氏名竝得

票ヲ反呼セシムヘシ

第十九條 投票ノ點檢ヲ終リ當選者定マリタルトキハ選舉長ハ

其ノ氏名ヲ朗讀スヘシ

第二十條 點檢ヲ終リタル投票ハ投票所毎ニ有効無効ニ分綴シ

全部ノ有効投票ト無効投票トヲ各別ニ封筒ニ入レ選舉長ハ選

舉立會人ト共ニ之ニ封印スヘシ

第二十一條 選舉ヲ終リタルトキハ郡市長ハ直ニ當選者ノ氏名

及其ノ得票數ヲ電信又ハ電話ヲ以テ知事ニ報告スヘシ

第二十二條 投票所選舉會場ニハ各其ノ門戸ニ標札ヲ掲クヘシ

第二十三條 投票錄選舉錄ハ謄本ヲ調製シ選舉人又ハ被選舉人

ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ
 第二十四條 郡市町村長ハ投票所及選舉會場ノ取締上必要アリ
 ト認ムルトキハ警察官吏ノ派遣ヲ要求スヘシ
 第二十五條 市町村長其ノ他投票管理者故障アルトキ直ニ之ニ
 代ハラシムルニ差支ナキ様豫メ相當措置スヘシ
 第二十六條 天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ
 更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ郡市町村長ハ直ニ其ノ事由
 ヲ知事ニ報告スヘシ
 第二十七條 選舉長ニ於テ縣會議員當選者ノ報告ヲ爲ストキハ
 當選者ノ族稱、位勳、職業、生年月日及直接國稅納額ヲ併テ
 報告スヘシ
 第二十八條 縣會議員選舉人名簿、投票錄、選舉錄、投票所入
 場券(第七條)、投票數調査表(第十七條)及點數簿(第十八條)
 ハ別記様式ニ據リ調製スヘシ

第二十九條 縣會議員選舉投票函ノ様式ハ衆議院議員投票函ノ
 例ニ依ル

附則

明治三十二年六月福井縣訓令第三十一號及明治三十二年六月福井縣
 訓令第三十四號ハ之ヲ廢止ス
 選舉人名簿様式 (用紙美濃紙)

第 號	番 號		種 別	納 稅		現 住 所
	直接國稅總	納 額		區	分	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	氏 名 出生年月日
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	
金	金	金	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	一年以來本 年以來本 年以來本 年以來本	

縣會議員選舉事務取扱手續

第 號	第 號				第 號	第 號									
	金					金									
何 稅	營 業 稅	所 得 稅	地 租	何 稅	營 業 稅	所 得 稅	地 租	何 稅	營 業 稅	所 得 稅	地 租	何 稅			
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
年月日生				年月日生				年月日生				年月日生			

福井縣會議員選舉人名簿

第 號	第 號				第 號	第 號									
	金					金									
何 稅	營 業 稅	所 得 稅	地 租	何 稅	營 業 稅	所 得 稅	地 租	何 稅	營 業 稅	所 得 稅	地 租	何 稅			
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
年月日生				年月日生				年月日生				年月日生			

番 號 直接國稅總納額

種 別 納 稅 區 分

一年以來本納額

一年以來本縣内他ノ市町村ニ於テ納ムル額

一年以來被相續人納稅シテ依リ取得シタル納額

現住所 氏名 出生年月日

備考

- 一 選舉人名簿ハ市ニ在リテハ市内ノ町、町村ニ在リテハ大字毎ニ見出ヲ附スルモノトス
- 二 選舉人名簿ヲ調製シタルトキハ其ノ表紙ニ左ノ如ク記載スヘシ

縣會議員選舉事務取扱手續

(表紙) 用紙厚表紙

大正何年

縣會議員選舉人名簿

福井縣何郡市選舉區

福井縣何郡選舉區某町村投票區 (某市町村第一) 又ハ何投票區

三 選舉人名簿確定シタルトキハ其ノ末尾ニ左ノ如ク記載スヘシ

本名簿ハ大正何年何月何日ヨリ何日間本郡(市)役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供シ同年何月何日確定シタリ

某郡(市)長 氏 名 印

四 選舉人名簿(確定名簿共)ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日

及事由ヲ欄外ニ記載シ官印又ハ職印ヲ押捺スヘシ

五 選舉人名簿修正ノ通知ヲ受ケタル町村長ハ名簿ニ附箋ヲ

以テ其ノ年月日及事由ヲ明瞭ナラシメ置クヘシ

六 大正三年^六内務省令第十號第一條及第二條ノ規定ニ依リ

選舉人名簿ノ授受ヲ爲シタルトキハ新ニ屬シタル部分ノ

名簿若ハ其ノ謄本ハ之ヲ別綴トシ關係名簿ノ末尾ニ左ノ

如ク記載スヘシ

(原名簿)

何々ノ事由ニ依リ某部分ノ選舉人名簿ハ之ヲ分割シ大正

何年何月何日某郡(市)町村長ニ送付シタリ

某郡(市町村)長 氏 名 印

縣會議員選舉事務取扱手續

(送付ヲ受ケタル名簿若ハ其ノ謄本)
本名簿(又ハ本名簿謄本)ハ何々ノ事由ニ依リ大正何年何
月何日某郡(市町村)長ヨリ送付ヲ受ケタリ

某郡(市町村) 長 氏 名 印

投票錄様式

- 一 某市(町村)福井縣會議員總選舉(補闕選舉)投票所(第一
又ハ何投票所)投票錄
- 二 福井縣會議員總選舉ニ付某郡(市)選舉區(某都市選舉區
福井縣會議員補闕選舉ニ付)本市(町村)投票所(第一又
ハ何投票所)ヲ本市役所(町村役場又ハ何ノ場所)ニ設ケ
タリ
- 三 左ノ投票立會人ハ孰レモ投票時刻迄ニ投票所ニ參會シタ
リ

氏 名

投票時刻ニ至リ投票立會人何名參會セサルニ因リ市長(町
村)長又ハ投票管理者)ハ臨時ニ投票區域内ニ於ケル選
舉人中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

氏 名

- 三 投票所ハ大正何年何月何日午前何時ニ之ヲ開キタリ
- 四 市長(町村)長又ハ投票管理者)ハ投票立會人ト共ニ投票ニ
先チ投票所ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開
キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ市長(町村)
長又ハ投票管理者)及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ
置キタリ

- 五 市長(町村)長又ハ投票管理者)ハ投票立會人ノ列席スル面
前ニ於テ選舉人及住所氏名ヲ選舉人名簿ニ對照シ相違ナ
キヲ認メ到着番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付シタリ

縣會議員選舉事務取扱手續

六 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何
 々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタル
 ニ依リ市長(町村長)又ハ投票管理者)ハ臨時ニ投票區域内
 ニ於ケル選舉人中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會
 人ニ選任シタリ

氏名

七 投票立會人中氏名ハ一旦參會シ午前(午後)何時何々ノ事
 項ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙投票立會人ハ二名(又ハ
 三名)在リ而モ市長(町村長)又ハ投票管理者)ニ於テ其ノ
 闕員ヲ補フノ必要ナキニ至レルヲ認メ特ニ其ノ補闕ヲ爲
 ササル旨ヲ宣言シタリ

氏名

八 左ノ選舉人ハ何々ノ事由ニ依リ投票立會人(又ハ可否同
 數ナルカ爲市町村長)又ハ投票管理者)ノ議決(又ハ決定)
 ニ基キ其ノ投票ヲ拒否シタリ

氏名

九 左ノ選舉人ハ誤テ投票用紙ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之
 ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票
 用紙ヲ交付シタリ

氏名

十 左ノ選舉人ハ投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ(喧擾ニ涉リ)
 (投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲナシ)(何々ニ因リ)投票所ノ
 秩序ヲ紊シタルニ依リ市長(町村長)又ハ投票管理者)ニ於
 テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙ヲ
 取上ケ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

十一 市長(町村長)又ハ投票管理者ハ午前(午後)何時投票所ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認メ(又ハ投票所ノ入口ヲ閉鎖スルニ先チ)投票所外ニ退出ヲ命シタル選舉人ニ對シ入場ヲ許シタルニ左ノ選舉人入場シタルヲ以テ投票セシメタリ

氏名

十二 午後何時ニ至リ市長(町村長)又ハ投票管理者ハ投票時間ヲ終リタル由ヲ告ケ投票所ノ入口ヲ閉鎖シタリ

十三 午後何時投票所ニ在ル選舉人ノ投票終了シタルヲ以テ市長(町村長)又ハ投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十四 投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ
其ノ鑰ハ市長之ヲ保管ス(市ノ投票區ニシテ市長ノ管理ニ係ルモノ)

其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ町(村)長(又ハ投票管理者)之ヲ保管ス(前掲所ニ係ルモノ)

十五 投票函投票録及選舉人名簿ヲ市(町村)長ノ管理スル投票所ニ(市町村ニ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テ市町村長ノ指名シタル市町村吏員ノ管理ニ係ルモノ)

投票函及投票録ヲ選舉會場ニ(前掲以外ノ投票所ニシテ町村ニ係ルモノ)送致スヘキ投票立會人左ノ如シ

氏名

十六 左ノ者ハ投票所ノ事務ニ從事シタリ

職氏名

十七 投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

職氏名

縣會議員選舉事務取扱手續

十八 投票所ニ入場シタル警察官吏左ノ如シ 官 職 氏 名

十九 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數 何 人

投票シタル選舉人ノ總數 何 人

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數 何 人

市長(町村長又ハ投票管理者)ハ此ノ投票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日 某市(町村) 長 氏 名

投票管理者

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 氏 名

氏 名

備考

一 書式ニ掲クル事項ノ外市町村長其ノ他投票管理者

ニ於テ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ニ記載スヘシ

選舉錄様式

某郡(市)福井縣會議員總選舉(補闕選舉)會選舉錄

一 福井縣會議員總選舉(補闕選舉)ニ付議員若干人選舉ノ爲本郡(市)選舉會場ヲ本郡(市)役所(又ハ何ノ場所)ニ設ケ

二 左ノ選舉立會人ハ孰レモ選舉會開會ノ時刻迄ニ選舉會場

縣會議員選舉事務取扱手續

二 三 參會シタリ人ハ其ノ...

氏名 氏名

三

大正何年何月何日各後投票所ノ投票函總テ到達シタルヲ以テ其ノ翌日(又ハ其ノ當日)(郡)

又ハ其ノ當日(市) 午前(午後)何時ニ選舉會ヲ開キタリ

四

選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何事ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルニ依リ更ニ左ノ者ヲ選舉立會人ニ定メタリ

氏名

選舉立會人中氏名ハ一旦參會シ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙選舉立會人ハ二名(又ハ

五

(三名)在リ而モ郡(市)長ニ於テ其ノ關員ヲ補フノ必要ナキニ至レルヲ認メ特ニ其ノ補闕ヲ爲ササル旨ヲ宣言シタリ 選舉長ハ選舉立會人ト共ニ逐次投票函ヲ開キ一函毎ニ投票ノ數ト投票人ノ數トヲ計算シ更ニ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

何票 何人

投票總數 投票人總數

投票ノ總數ト投票人ノ總數ト符合セリ

投票ノ總數ト投票人ノ總數ト符合セス即投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多シ(又ハ少ナシ)

六

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票所毎ニ投票ヲ點檢シ有効又ハ無効ト決定シタル投票左ノ如シ

有効投票

無効投票

何票 何票

無効の内

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモ又 何 票
- 二
- 三
- 四
- 五
- 六

七 有効投票ノ内得票者ノ氏名及其ノ得票数左ノ如シ

何 票 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏

八 選挙區ニ配當セラレタル議員定數何人ヲ以テ選舉人名簿ニ

登録セラレタル人員數何人ヲ除シテ得タル數ハ何人何分ニシテ此ノ七分ノ一ノ數ハ何票ナリ得票者中此ノ數ニ達スルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

何 票 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏 何 氏

右ノ内有効投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何名ヲ以テ當選者トス

氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數同シキニ依リ其ノ出生年月日ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ則チ氏名ヲ以テ當選者トス(又ハ同年月日ナルヲ以テ選舉長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當選セリ依テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ)

九 選舉長ハ投票所毎ニ投票ノ有効無効ヲ分綴シ全部ノ有効投票ト無効投票トヲ各別ニ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ之ヲ封印シタリ

十 左ノ者ハ選舉會場ノ事務ニ從事シタリ

縣會議員選舉事務取扱手續

縣會議員選舉事務取扱手續

二二八

官職氏名

官職氏名

官職氏名

十一 選舉會場ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職氏名

十二 選舉會場ニ入場シタル警察官吏左ノ如シ
官職氏名

十三 午前(午後)何時選舉會ノ事務ヲ了シ選舉會ヲ閉チタリ
選舉長ハ此ノ選舉錄ヲ作り之ヲ朗讀シタル上選舉立會人
ト共ニ茲ニ署名ス
選舉長 某郡(市)長 氏
選舉立會人 氏

大正何年何月何日

氏名

備考

一 書式ニ掲クル事項ノ外選舉長ニ於テ選舉ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

投票所入場券様式

表

縣會議員選舉事務取扱手續		投票所入場券	
選舉人名簿ノ番號	選舉人ノ住所氏名生年月日	投票所	投票時ノ
第 號	福井縣何郡(市)何町村何大字何 某 何年月日生	何市役所、何町村役場 又、何郡(市)何町村何大字何々	何年何月何日午前何時ニ開キ午前(後)何時ニ閉ツ

縣會議員選舉事務取扱手續

二二九

縣會議員選舉事務取扱手續

一 此券ハ投票ノ當日受付所ニ差出シ之ト引換ニ到着番號札ヲ受取ルヘシ

年 月 日

某市(町村)長 氏 名印

又ハ

何市(町村)第一又ハ何投票所管理者 氏 名印

裏

此券ハ投票ノ當日受付所ニ差出シ之ト引換ニ到着番號札ヲ受取ルヘシ
年 月 日
某市(町村)長 氏 名印
又ハ
何市(町村)第一又ハ何投票所管理者 氏 名印

投票數調查表樣式

投票數調查表

投票函到達番號	投票所名	投票數	投票錄ニ記載セル投票人數
第一番 何	村		

點數簿樣式

點數簿

合計	何 某	何 某	被選舉人名	投票函到達番號	合計
			第一番	第二番	

◎縣會議員投票用紙樣式

投票用紙樣式 用紙西ノ内又ハ程村

縣會議員投票用樣式

大正四年八月 告示第一三六號

目折 目折 目折

縣會議員選舉投票 所 郡市役 印	被選舉人
	何 某

朱印 長六分 裏六分 目切

表
縣會議員選舉投票 所 郡市役 印

目折

縣會議員失格者報告ノ件

大正四年八月
訓 第五三號

縣會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認メタルトキハ其ノ氏名及事由又死亡セルトキハ其ノ氏名及年月日ヲ知事ニ報告スハ

縣稅賦課規則

第一章 總 則

縣會議員失格者報告ノ件
縣稅賦課規則

明治三十六年二月
縣令 第一一號

第一條 地租割

本條第二項ノ市町村ヲ除ク

戶數割家屋稅及營業稅、雜種稅中年稅

(工業稅中ノ煉瓦燒、瓦燒、陶器燒、石灰燒、炭燒、製糸、製茶、笠莫產製作、酒杜氏及遊藝稼人稅甲、船稅、水車稅、漁業稅、採藻稅、坂網獵稅、毛網獵稅ヲ除ク)ハ每年度二期ニ分チ四月一日十月一日ノ現在ニ依リ賦課ス
左ノ市町村ニ於ケル地租割ハ每年度四月一日ノ現在ニ依リ賦課ス

福井市

坂井郡 吉崎村、竹田村、新保村、雄島村

今立郡 鯖江町、下池田村

丹生郡 城崎村、四ヶ浦村、下岬村、越廼村、國見村

敦賀郡 敦賀町

大野郡 西谷村、下穴馬村、上穴馬村、石徹白村、五箇村

、蘆見村、下味見村、北谷村

南條郡 河野村、武生町、今庄村、鹿森村、堺村

工業稅中煉瓦燒、瓦燒、陶器燒、石灰燒、炭燒、製糸、製茶、笠莫產製作、酒杜氏及遊藝稼人稅甲、船稅、水車稅、漁業稅、採藻稅、坂網獵稅、毛網獵稅ハ每年度四月一日ノ現在ニ依リ賦課ス

第二條 季稅及月稅ハ其ノ季節又ハ其ノ月初日ノ現在ニ依リ賦課ス

第三條 臨時稅ハ届出日數ニ依リ開業届出ノ日ニ於テ之ヲ賦課ス

前項届出日數ヲ延長シタルトキハ開業ト看做シ更ニ賦課ス
臨時賦課ノ後法令其ノ他不可抗力ニ原因シ開業日數ヲ短縮シタルトキハ請求ヲ待テ其ノ賦課額ヲ更正ス

第四條 賦課期日以後新ニ納稅義務發生シ又ハ増加シタルモノハ其ノ際當該期ノ全額又ハ増加額ヲ賦課ス但シ開墾又ハ地目

變換ニ由リ地稅ノ増加シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
十月以後新ニ納稅義務ノ發生シタルモノニハ九月以前ニ於ケ
ル追加稅ハ賦課セス

第一條第二項ノ市町村ニ於テ十月以後新ニ有租地トナリタル
土地ニ對シテハ通常稅地租割ハ其ノ年度通常稅率ノ半額ヲ賦
課ス

地租割ノ賦課ヲ受クベキ土地ニシテ一定ノ賦課期日迄ニ地價
確定ニ至ラサルモノハ地價確定ノトキニ於テ既往ノ稅額ヲ一
時ニ賦課ス

第五條 縣稅課目課額中普通年額トシテ定メタルモノ及戶數割
ハ市町村會ニ於テ等差ヲ設ケ各自ノ賦課額ヲ議定スヘシ此ノ
場合ニ於テ市町村會ハ其ノ市町村內納稅義務者ノ負擔總額ヲ
減少スルヲ得ス 但シ貧困者ニハ負擔總額ヲ減セサル範圍內
ニ於テ其ノ賦課ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ等差ハ戶數割ハ其ノ市町村內ヲ通シ貧富ノ程度ニ應シ營
業稅雜種稅ハ課目毎ニ其ノ市町村內ノ同等地ヲ通シ賣上金高
收入金高等ヲ標準トシ之ヲ設クヘシ

第一項ノ議決ハ初度ノ賦課期日以前ニ之ヲ爲スヘシ市町村會
ニ於テ各自ノ賦課額議定後代替リ又ハ其ノ營業ヲ繼續シ若ハ
繼續シタルモノト認ムヘキ者ハ前者ノ賦課額ヲ賦課ス

第六條 追加稅ニシテ縣稅課目課額ニ於テ普通年額トシテ定メ
タルモノ及戶數割ハ通常稅ノ賦課額ヲ標準トシ各自ノ稅額ヲ
算定シテ之ヲ賦課ス追加稅ノ賦課期日ハ其ノ時々之ヲ定ム

第七條 本則ニ依リ納稅ノ後一時納稅義務消滅シ其ノ期間ニ於
テ再同一義務ヲ生シタル者ハ更ニ其ノ期間ニ於テ課稅セス
但シ納稅義務ノ増シタル部分ニ對シテハ第四條第一項ニ依ル
他人ノ營業又ハ土地物件ヲ繼續シ若ハ繼續シタル者ト認ム可
キ事實アル者亦前項ニ同シ

第八條 納稅前營業又ハ土地物件ヲ讓渡シタルトキハ納期ニ於テ納期ノ數日ニ抄ルモノハ其ノ末日ニ於テ納稅義務ヲ負フ者之ヲ納ムヘシ

第九條 縣稅課目課額ニ於テ普通年額トシテ定メタルモノ及戶數割ニシテ第五條ニ依リ各自ノ賦課額議定後新ニ納稅義務ノ起リタル者ハ其ノ年度中普通年額又ハ一戶平均額ニ依リ賦課ス但シ特別ノ事由アルモノニ限り市町村會ノ議決ヲ經他ノ等差ニ照準シ其ノ賦課額ヲ増減スルコトヲ得

第十條 納稅義務消滅スルモ其ノ届出ヲ爲サ、ル間ハ仍納稅義務ノ存スルモノト看做ス

第十一條 脫稅者發覺シタルトキハ其ノ税金ヲ一時ニ徵收ス此ノ場合ニ於テ縣稅課目課額ニ於テ普通年額トシテ定メタルモノ及戶數割ニシテ第五條ノ議定課額ナキ者ハ第九條ヲ準用ス
第二章 地租割

第十二條 地租割ハ地租納稅義務者ニ賦課ス

第三章 營業稅雜種稅

第十三條 營業稅雜種稅ハ縣稅課目課額ニ定ムル營業其ノ他ノ行爲ヲ爲ス者又ハ物件ヲ所有スル者ニ賦課ス

法人建物稅ハ建物使用者ニ賦課ス
電柱稅ハ電燈、電車、電話其ノ他動力ニ用ユル電柱使用者ニ賦課ス

第十四條 店舗營業所、工業場ヲ數箇所ニ設クル者ハ各別ニ課稅ス但シ勤工場ハ各自ノ販賣所ヲ以テ一箇所ト看做ス

第十五條 市町村會ニ於テ各自ノ賦課額議定後營業所ヲ移轉スルモ既定ノ賦課額ヲ變更セス

第十六條 營業者ノ家族又ハ雇人ヲシテ行商又ハ呼賣出賣ヲ爲サシムル場合ニ於テ其ノ營業主ト同居常住セサルモノハ單獨營業者ト看做シ商業稅ヲ賦課ス

第十七條 宿屋稅ハ宿料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルヲ業トスル者ニ賦課ス

下宿屋稅ハ下宿料ヲ受ケテ七日以上滞在スル者ヲ宿泊セシムルヲ業トスル者ニ賦課ス

本賃宿稅ハ飲食物ヲ供給セズ木錢及雜費ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルヲ業トスル者ニ賦課ス

第十八條 工業稅ニシテ甲乙ノ區分アルモノハ從業者二人以上ノ者ニ甲額ヲ賦課シ從業者一人ノ者ニ乙額ヲ賦課ス但シ工業者ノ家族又ハ雇人ニシテ男十五歲女十三歲未滿六十歲以上ノ者及不具廢疾ノ者ハ從業人員ニ算入セス

職工稅ハ人ノ依頼ヲ受ケ又ハ他人若ハ製造場ニ傭役セラレ原料ヲ供給セス單ニ工錢又ハ賃錢ヲ受クルヲ業トスル者ニ賦課ス

第十九條 料理屋稅ハ客間ヲ設ケ來客ノ需メニ應シ飲食物ヲ供

シ其ノ代價ヲ受クル者ニ賦課ス

第二十條 飲食店稅ハ店頭又ハ一時ノ假屋ニ於テ來客ノ需メニ應シ飲食物ヲ供シ其ノ代價ヲ受クル者及行厨又ハ仕出ヲ爲ス者ニ賦課ス

第二十一條 遊藝師匠遊藝稼人ニシテ單ニ其ノ業ヲ營ム者ハ甲額ヲ賦課シ客ノ招キニ應シテ謝儀ヲ受クル者ハ乙額ヲ賦課ス

第二十二條 屠畜稅ハ屠殺毎ニ之レヲ賦課ス

第二十三條 法人建物稅ハ其ノ所有ナルト否トヲ問ハス福井市外ニ於テ私法人ノ現ニ使用スル建物ノ種類ニ應シ階上階下ノ坪數ヲ合算シテ賦課ス

第二十四條 (刪除)

第二十五條 筵稅ハ流送許可ノ都度之ヲ賦課ス

第二十六條 市町村會ニ於テ各自ノ賦課額ヲ議定スルニ當リ國稅營業稅ヲ納ムル者ト同種ノ業ヲ營ム者ノ賦課額ハ其ノ同種

ノ業ニ屬スル國稅營業稅ノ最低額ニ縣稅附加稅ヲ加ヘタル額
業以內ニ止ムヘシ
前項國稅營業稅ノ最低額ハ前年額ニ依ルコトヲ得

第二十七條 興行ニシテ中錢、座代ニ等差アル者ハ其ノ平均額

ニ依リ賦課ス但シ木戶錢等ニ等差アルモノハ其ノ最高額ニヨ
リ賦課ス

第二十八條 海湖漁稅ハ海湖ニ於テ河川漁稅ハ河川池沼ニ於テ

漁業ヲ爲ス者ニ賦課ス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ其ノ稅額ノ多キ方ニ依リ課稅ス
但シ中途廢業ノ爲其ノ納稅額他ノ少ナキ方ノ稅額ニ達セサル
トキハ其ノ差額ヲ追課ス

一、工業職工互ニ相兼ネ若ハ數種ノ工業職工ヲ兼テ營ム者但

ニシテ紺屋ニシテ染物業ヲ兼ヌル場合ノ外物件ヲ目安トシテ
其課稅スルモノハ此ノ限ニ在ラス

二、水車ニシテ工業用ト搗臼挽臼トノ用ヲ相兼ヌル者

三、宿屋、下宿屋、木賃宿、待合茶屋、料理屋、飲食店、遊

船宿、芝居茶屋ノ業ヲ相兼ヌル者

四、遊藝師匠、遊藝稼人、俳優、藝妓、幫間ノ業ヲ相兼ヌル

者

五、理髮人ニシテ斬髮、結髮ヲ相兼ヌル者

六、海湖漁、河川漁、採藻業ヲ互ニ相兼ヌル者

第三十條 左ニ掲クル者ニハ別ニ其ノ稅ヲ課セス

一、工業者ニシテ其ノ製造品ヲ販賣シ若ハ製造品ノ外他ヨリ
仕入タル物品ノ現在價格五圓以內ノモノヲ販賣スル者及
靴履物工業ニシテ其ノ製造品ノ外附屬品ヲ併セ販賣スル
者

二、飲食店ニシテ飲食品ノ外他ヨリ仕入タル物品ノ現在價格

五圓以內ノモノヲ販賣スル者

- 三 農業、林業、漁業、採藻業者ニシテ其ノ生産物又ハ捕獲物、採取物ヲ呼賣又ハ露店ニ於テ販賣スル者
- 四 藁作芋貯ヲ爲ス者
- 五 男十五歳女十三歳未満六十歳以上ノ者又ハ不具癱疾ノ單身者ニシテ僅少ノ物品ヲ販賣シ若ハ職工、遊藝師匠、遊藝稼人、俳優、幫間、漁業、採藻ヲ爲ス者
- 六 煙管竹仕替、紙屑買ヲ專業トスル者
- 七 慈善及非常専用ノ船車神社有祭典用ノ船車、倉庫船、渡シ場又ハ船橋ノ組成ニ用キル船、本船附屬ノ傳馬船、バツテラ
- 八 産業組合漁業組合及營利ヲ目的トセサル私法人ノ使用建物
- 九 産業組合漁業組合ノ營ム商工業
- 一〇 公共団体ニ於テ公共事業ノ爲メ流送スル復

- 二 水車ニシテ自用揚水ニ基ク者
- 三 出版業ニシテ新聞紙法ニ依ルモノ
- 四 収入ノ全部ヲ慈善ノ用ニ供スル演劇及興行
- 五 現ニ他府縣ニ於テ同一種類ノ納稅義務ヲ負テ相撲(行司含ム)俳優遊藝稼人及時獵者
- 六 一本釣(鮎、コ、ロ、コ、ロ、釣、鮎ノ友釣及海面ニ於テスル者ヲ除ク)及水潜(水眼鏡又ハ其人他ノ器具ヲ使用スル者ヲ除ク)漁業
- 七 法人建物ニシテ納期前災害ノ爲亡失シタルトキハ當該期ノ税金ヲ免除ス

第四章

營業稅附加稅、所得稅附加稅、鑛業稅附加稅、賣藥營業稅附加稅

第三十一條

營業稅附加稅、鑛業稅附加稅及賣藥營業稅附加稅

ハ主稅徵收額ニ基キ所得稅附加稅ハ主稅確定額ニ基キ其ノ時

々之ヲ賦課ス

第三十二條 國稅營業稅ヲ納ムル者ニシテ主タル營業所ヲ他府縣ニ置キ本縣内ニ數箇ノ營業所ヲ設ケ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對スル附加稅ハ一ヶ所ニ合セテ之レヲ賦課ス

第五章 戶數割

第三十三條 戶數割ハ福井市以外ニ於テ現ニ一戶ヲ構フル者ニ賦課ス

同居又ハ寄寓スルモ獨立生計ヲ爲スモノハ一戶ヲ構フル者ト看做ス官有公有ノ營造物及家屋又ハ社寺教務所、教會堂、製造所、銀行、會社等ニ住居シ獨立ノ生計ヲ爲ス者亦同シ

第三十四條 町村會ニ於テ戶數割各自ノ賦課額議定後他町村へ轉居スルモ既定ノ賦課額ヲ變更セス但シ第三十五條ノ轉居者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 戶數割納稅義務者他へ轉居スルモ家族現住スルト

キハ其ノ家族ニ對シ既定ノ賦課稅ヲ賦課ス

第三十六條 左ニ掲クル者ニ戶數割ヲ賦課セス

一 官公費ニ依リ救助ヲ受クル者但シ災害ノ爲一時ノ救助ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六章 家屋稅

第三十七條 家屋稅ハ福井市内ニ於ケル建物ノ所有者ニ賦課ス

第三十八條 家屋稅ハ建物ノ坪數ヲ基礎トシ其ノ敷地ノ等位ト建物ノ種類トニ依リ一定ノ準率ヲ設ケ各自ノ課額ヲ算定シテ賦課ス

前項ノ準率ハ市會ニ於テ初度ノ賦課期日以前ニ之ヲ議定スヘシ但シ連年襲用スルコトヲ得

第三十九條 左ノ建物ハ家屋ヲ課セス

一 私立學校及學藝美術慈善ノ用ニ供シ營利ヲ目的トセサル建物

一 門及假小屋但シ門ニシテ人ヲ住居セシメ又ハ物品ヲ藏置

第三十條 賦課期日ニ於テ移轉廢毀中ニ係ル建物ニ對スル家屋稅ハ之

第四十條 災害ノ爲納期前家屋ヲ亡失シタルトキハ當該期ノ稅

金ヲ免除ス

縣稅賦課規則施行細則

大正四年三月
縣令第一四號

第一條 縣稅營業稅雜種稅ヲ納ムヘキ義務ヲ生シタル者ハ其ノ
旨所轄郡市長ニ届出ツヘシ但シ湯屋、斬髮、藝妓、市場、興
行、遊覽所、遊技場、人寄席、船、營業人力車、荷積車、狩
獵、代書人、筏ハ此ノ限ニ在ラス

電柱稅ヲ納ムヘキ義務者ニシテ電柱ノ所在ガ數郡市長ニ涉ル場
合ハ納稅地ヲ一箇所ニ定メ當該郡市長ニ届出ツヘシ

第一項ノ届書ニハ業目、種別、住宅ト營業所工業場ト異ナル
モノハ營業所工業場ノ所在地其ノ他縣稅課目課額ニ掲クル繼
稅ノ目安ヲ記載スヘシ

第二條 縣稅營業稅雜種稅ヲ納ムヘキ者ハ左ノ雜形ノ標札ヲ製
シ市町村長ノ檢印ヲ受ケ住宅、店舖、營業所、工業場等ノ見
易キ箇所ニ掲クヘシ但シ常ニ他ノ一定ノ工業場ニ使役セラ
ル職工、演劇、相撲、行司、俳優、幫間、藝妓、臨時市場、
興行、遊覽所、遊技場、船、車、自轉車、自動車、屠畜、漁
業、(海湖漁ヲ除ク)日本形船、西洋形船、法人建物、狩獵、
坂網獵、毛網獵、案内業、筏、電柱ハ此ノ限ニ在ラス
用材適宜

縱六寸

業目

郡市町村大字
氏名

幅三寸五分

一人ニシテ二個以上兼業スル者ハ其ノ業目ヲ列記スルモ妨ナシ

第三條 左ノ各目ニ該當スルモノハ所轄郡市役所ヨリ鑑札ヲ受ケ自轉車鑑札ハ「ヘッド」ニ附著ヲ請ヒ自用人力車鑑札ハ車ノ蹴込ニ附著シ其ノ他ハ之ヲ携帯スヘシ但シ營業者ト同居常住ノ家族又ハ雇人ニ携帯セシムル行商鑑札ハ營業主ニ於テ之ヲ請求スヘシ

行商(別段ノ規定ニヨリ鑑札アルモノヲ除ク)請負業、露店、呼賣商、職工、遊藝稼人、相撲、行司、俳優、幫間、藝妓、自用人力車、自轉車海湖業、河川漁(別段ノ規定ニヨリ鑑札アルモノヲ除ク)採藻、仲仕、坂網獵、毛細獵及工業者、理髮人、遊藝師匠其ノ他ニシテ出稼ヲ爲スモノ前項ノ各目ニ該當スルモノニシテ年齢ニ依リ課稅部外タルモノ亦所轄郡市長ニ届出テ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ

請負業、露店、呼賣商、職工、遊藝稼人、相撲、行司、俳優、幫間、藝妓ハ納稅ノ都度第一項鑑札ノ裏面ヘ納稅濟ノ證印ヲ受クヘシ但シ當該期(納期前ナルトキハ前期)又ハ當月分(納期前ナルトキハ前月分)ニ係ル納稅濟ノ證印ナキ鑑札ハ之ヲ無効トス

鑑札ハ貸借スルコトヲ得ス

第四條 左ノ各號ニ該當スルモノハ其ノ都度所轄郡市長ニ届出

縣稅賦課規則施行細則

ツヘシ 但シ第三號ノ場合ハ移轉地ノ郡市長ニ届出ツルモノトス

一 廢業、死亡、物件ノ廢毀、他管下へ營業又ハ物件ノ移轉、課稅部内ノ者課稅部外トナリタルトキ

二 代替リ改氏名課稅目安物其ノ他業目種別ノ異動増減、同郡市内ニ於ケル營業又ハ物件ノ移轉若ハ繼續第三條

第二項ノ課稅部外者課稅部内へ入りタルトキ

三 他郡市へ營業又ハ物件ノ移轉若ハ繼續

前項第二號第三號中他人ノ營業又ハ物件ヲ繼續シタル場合ハ雙方其ノ届書ニ連署スヘシ

第五條 電柱ヲ使用スル電氣事業會社ニシテ利益配當カ一箇年

ヲ通シ年五分未滿ナルトキハ當該期ノ決算書ヲ添へ三月三十一日迄ニ所轄又ハ納稅地郡市長ニ届出ツヘシ

第六條 第四條第一項第一號ニ該當スルモノハ標札ハ市町村長

ノ消印ヲ請ヒ鑑札ハ所轄郡市役所ニ返納シ同條第一項第二號

ニ該當スルモノハ標札ハ更正檢印ヲ市町村長ニ鑑札ハ書換ヲ所轄郡市長ニ請求シ同第一項第三號ニ該當スルモノハ標札ハ

更正檢印ヲ移轉地ノ市町村長ニ鑑札ハ書換ヲ移轉地ノ郡市長ニ請求シ同時ニ前標札ハ市町村長ノ消印ヲ請ヒ前鑑札ハ郡市

役所ニ返納スヘシ

第七條 標札又ハ鑑札ヲ亡失磨滅若ハ毀損シタルトキハ標札ハ再檢印ヲ市町村長ニ鑑札ハ再渡ヲ郡市長ニ請求スヘシ

第八條 縣稅賦課規則第三十二條ニ該當スル者ハ其ノ附加稅納附地ヲ定メ知事ニ届出ツヘシ

第九條 國稅營業者ニシテ縣稅營業稅雜種稅ヲ納ムヘキ義務者ニ轉シ又ハ縣稅營業稅雜種稅ヲ納ムル者國稅營業稅ヲ納ムヘ

キ義務者ニ轉シタルトキハ開廢業ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ第十條 本縣内ニ於テ第一種及第三種ノ所得稅ヲ納ムル者本縣

外ニ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業シ之ニ對スル所得アルモノ又ハ本縣外ニ於テ第一種及第三種ノ所得稅ヲ納ムル者本縣内ニ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業シ之ニ對スル所得アルモノハ其ノ所得金額決定ノ都度本縣内ニ於ケル所得ト本縣外ニ於ケル所得トヲ區分シタル所得金額ヲ前者ニ屬スルモノハ所轄郡市長ニ後者ニ屬スルモノハ知事ニ届出ツヘシ
 第三種ノ所得稅ヲ納ムル者本縣内ニ住所ヲ有シテ三箇月以上本縣外ニ滞在シ又ハ本縣外ニ住所ヲ有シテ三箇月以上ニ滞在スル者ハ所得金額決定ノ際其ノ金額及本縣内外ニ於ケル住所及滞在地ヲ所轄郡市長ニ届出ツヘシ 但シ前項ニ該當スル所得金額ニ就テハ此ノ限ニ在ラス
 第十一條 臨時稅ノ賦課ヲ受ヘキ者ハ開業前所轄郡市長ニ届出ツヘシ豫定日數ノ延長又ハ課稅目安ノ増加シタルトキ亦同シ

第十二條 屠畜ヲナス者ハ屠殺前所轄郡市役所ニ納稅シ警察官署ヘ屠殺届出ノ際其ノ證ヲ示スヘシ

第十三條 死亡者所在不明者ニ係ル本則ノ手續ヲ要スルモノハ遺族又ハ親族等ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 常時一定ノ工業場ニ使役スル職工ニ係ル本則ノ手續ハ其ノ工業主ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第一條第二條第三條第四條第一項第二號第三號同條第二項第六條第七條第十一條ニ違背シ當該官吏吏員ノ督促ヲ受ケ尙之ニ應セサル者自轉車鑑札ヲ規定ノ場所ニ附著セサル者及第三條第四項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十五條 本令ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治三十二年 月 十二 福井縣令第九十號ハ本令施行ノ日

ヨリ廢止ス

●縣稅賦課規則施行手續

明治三十三年二月
訓令 第一三號

第一條 町村制第一百一條第二項及第四項ニ依リ町村稅ヲ賦課セサル土地ヲ生シタルトキハ町村長ニ於テ其ノ都度調書ヲ作り之ヲ郡長ニ報告スヘシ其異動アルトキ亦同シ

第二條 市町村長ニ於テ縣稅賦課規則第五條ニ依リ其ノ市町村會ニ發付スル戶數割(市ヲ除ク)營業稅、雜種稅ノ課稅等級議案ハ最近ノ現在數ニ依リ調製スヘシ

第三條 市町村長ハ課稅等級決議書及家屋稅賦課準率決議書ヲ部内ニ公示シ該決議書ニ依リ課稅帳ヲ調製スヘシ
町村長ハ課稅帳ノ謄本ヲ作り決議後十日以内ニ郡長ニ報告スヘシ

第四條 課稅等級議定以後納稅義務ノ興廢ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ハ其ノ時々課稅帳ニ訂正ヲ加ヘ其ノ戶數割ニ係ルトキハ町村長ハ尙之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五條 縣稅賦課規則第十五條ニ該當スル者アルトキハ原地市町村長ハ移轉地市町村長ニ第三十四條本文ニ該當スル者アルトキハ原地町村長ハ移轉地町村長ニ既定賦課額及納稅ノ濟否ヲ通報シ課稅帳ヲ削除シテ町村長ニ在リテハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

移轉地町村長ハ前項ノ通報ニ依リ課稅帳ニ記入シ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第六條 町村長ニ於テ縣稅ニ關スル届書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ與印スヘシ

第七條 郡市長ニ於テ縣稅賦課規則施行細則第四條第一項第三號ノ届書ヲ受理シタルトキハ其ノ旨原地ノ郡市長ニ通牒スヘシ

前項ノ通牒ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ關係町村長ニ通知スヘシ
郡内町村間ニ於ケル營業又ハ物件ノ移轉ニ依リ標札ノ檢印及
鑑札ノ書換ヲ爲シタルトキ亦前項ニ依ルヘシ
第八條 縣稅賦課規則施行細則第六條ニ依リ町村長ニ於テ標札
ノ消印ヲ爲シタルトキハ其ノ屈書初行欄外ニ消印濟ノ旨ヲ記
入シ檢印スヘシ

第九條 縣稅賦課規則施行細則第三條ニ依リ交付スル鑑札ハ左
ノ雛形ニ依ル可シ

(鑑札雛形省畧ス)

●縣稅戶數割賦課等差標準ニ關
スル件

明治四十三年十二月
訓令 第五七號

縣稅賦課規則第五條ノ戶數割賦課ノ等差ハ町村長ニ於テ一定ノ

標準ヲ作り之ニ依リ町村會議案ヲ編製スヘシ
前項ノ標準ハ豫メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

●縣ノ内外ニ營業所ヲ設クル場合
賦課歩合通報ノ件

明治三十二年十二月
訓令 第七四號

營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル營業ニシテ本縣及他府
縣ニ涉リ營業所ヲ設クルモノニ對シ本縣ニ於テ賦課スヘキ營業
稅附加稅ノ賦課歩合ハ當廳ヨリ其附加稅ヲ徵收スヘキ營業所ヲ
所轄スル郡市長ニ通報シ郡市長ハ此ノ通報ニヨリ之ヲ其營業者
ニ示達シ且徵稅ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ營業者ニシテ主タル營業所ヲ本縣以外ニ設クルモノノ營
業稅額ハ當廳ヨリ郡市長ヘ通報ス

●縣稅徵收ニ關スル細則

明治三十五年八月
縣令 第七六號

縣ノ内外ニ營業所ヲ設クル場合賦課歩
合通報ノ件

第一條 勅令第四條第一項ノ徵稅令書(礦業稅附加稅)
(臨時稅ヲ除ク)ハ第一號書

式ニ依リ郡市長ニ於テ隨時收入ニ係ルモノハ其ノ時々其ノ他
ハ各納期初日七日前ニ之ヲ發スヘシ

前項ノ徵稅令書ニハ其ノ徵收期限後三日以内ヲ以テ納付期日
ヲ指定スヘシ

礦業稅附加稅電柱稅臨時稅ノ徵稅令書ハ各納稅人ニ對シ郡市
長ニ於テ其ノ時々之ヲ發スヘシ

第二條 市町村長ニ於テ前條ノ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ納期
初日前第二號書式ノ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付
スヘシ

第三條 徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ
其ノ事由ヲ具シ令書ノ再發ヲ請フヘシ
前項ノ場合ニ於テハ當該官吏吏員ハ直ニ之ヲ交付スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ各自ノ稅額計算上若ハ其ノ他ノ事故ニ
依リ徵稅令書ノ賦課額ニ増減ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ郡市
長ニ報告スヘシ

郡市長ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ増額ニ對シテ
ハ令書ノ追發ヲ爲シ減額ニ對シテハ第三號書式ニ依リ之ヲ通
報スヘシ

市町村長ニ於テ前項減額ノ通報ヲ受ケタルトキハ現金拂込ノ
際收入命令書ニ對スル減額命令書ヲ縣金庫ニ交付スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ徵收シタル稅金ヲ納付セムスルトキハ
該稅金ニ徵稅令書收入命令書ヲ添ヘ指定ノ縣金庫ニ拂込ミ現
金領收ノ證印ヲ受クヘシ

稅金分納ノ場合ハ第一回現金拂込ノ際收入命令書ヲ縣金庫ヘ
交付シ現金拂込ノ都度徵稅令書ニ其ノ分納額領收ノ證印ヲ受
クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ該分納額ニ對スル第四號書式ノ仕譯書ヲ
作リ同時ニ郡市長ニ提出スヘシ

第六條 勅令第六條第一項ノ報告ハ第五號書式ニ依リ納期限後
五日以内ニ之ヲ發スヘシ

第七條 郡市長ニ於テ税金納付ノ督促ヲ爲ストキハ七日以内ノ
納期限ヲ指定シ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ

納稅人督促ヲ受ケ税金及督促手数料延滞金ヲ納付セントスル
トキハ前項督促狀ヲ以テ現金ヲ縣金庫ニ拂込ムヘシ

第八條 勅令第七條第二項ノ督促手数料ノ額ハ金拾錢トシ同第
七條ノ二ノ延滞金ノ割合ハ一日ニ付税金額ノ萬分ノ三トス

但シ郡市役所所在地以外ニ居住スル滞納者ニ對シ使丁ヲ以テ
送達スルモノハ里程一里毎ニ金八錢郵便ヲ以テ送達スルモノ

ハ金拾錢ヲ増徴ス
郡市長ニ於テ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ前

項ノ延滞金ヲ徵收セス

第九條 勅令第八條ニ依リ納期日前税金ヲ徵收セムトスルトキ
ハ郡市長ニ於テ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ税金ニシテ市町村ノ徵收スヘキモノナルトキハ納稅人
ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通報スヘシ

第十條 市町村長ニ於テ既納ノ税金ニ過納アルコトヲ發見シタ
ルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ之ヲ

充ツヘシ
過納ノ税金ニシテ還付ヲ要スルモノアルトキハ其ノ事由及所

屬年度稅目金額住所氏名等ヲ詳記シ之カ返還ヲ郡市長ニ請求
スヘシ

郡市長前項ノ請求ヲ受ケタルトキ若ハ自己ノ取扱ニ係ル税金
ニ過納アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ過納トナリタル事實

ヲ調査シ之ヲ還付スヘシ但シ過年度ニ屬スルモノハ郡市長ヨ

リ更ニ知事ニ請求スヘシ

第十一條 勅令第十二條ニ依リ納稅義務者カ納稅管理人ヲ定メ郡長ニ申告スルトキハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十二條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ申告シタル場合ニ於テハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ニハ管理人ノ氏名ヲ副書スヘシ

第十三條 使丁ヲ以テ督促狀ヲ送達スルトキハ第八號書式ノ送達書ヲ添付シ同號書式ノ送達證書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ

第十四條 納期ノ末日日曜又ハ大祭祝日ニ當ルトキハ其ノ翌日ヲ以テ納期ノ終トス

第十五條 毎年四月ヨリ九月マテニ徵收セシ税金ニ對スル交付金ハ十月五日十月ヨリ翌年三月マテノ分ハ四月五日限り第九號書式ニ依郡市長ニ於テ知事ニ之ヲ請求スヘシ
附則

第十六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治三十三年四月福井縣令第四十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(様式ハ省畧ス)

縣稅徵收取扱規程

明治三十四年三月
訓令 第一二號

第一條 市町村長ハ初度ノ納期以前ニ於テ徵收元帳ヲ備ヘ各納稅人ノ稅額及其ノ合計金額ヲ測定記入スヘシ

郡市長ヨリ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ合計金額ト對查シタル後徵稅傳令書發付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 收入役ハ各納稅人ヨリ納付シタル稅額ハ縣稅受拂簿ニ記入シタル後徵稅傳令書ニ接續ノ領収書ヲ切離シ令書ハ市町村長ヘ其ノ領收証ハ各納人ヘ交付スヘシ

縣稅 收ニ關スル細則
縣稅徵收取扱規程

前項ノ受拂簿ハ毎日現在金額ノ欄ニ市町村長ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 市町村長ニ於テ前條令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ徵收元帳ト對查シ納濟月日ヲ記入シ該令書ハ毎日各款ニ分チ之ヲ編綴シ裏面ヘ其ノ日ノ集計金額ヲ朱記シ受拂簿ノ現在金額ト對照シタル後之レニ檢印ヲ捺シ收入役ニ返付スヘシ
收入役ニ於テ前項令書ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ保存スヘシ

第四條 徵收シタル金額ハ徵收後必ス五日以内ニ縣金庫ニ拂込ムヘシ

第五條 既納ノ税金中還付ヲ受ケタル金額ハ受拂簿及徵收元帳摘要欄内ヘ朱記スヘシ

第六條 滯納報告濟額ハ徵收元帳合計表中收入未濟額ノ欄ニ朱記スヘシ

第七條 營業稅附加稅所得稅附加稅ニ關スル郡市長ノ通報書類ハ總テ別括ニ編綴保存スヘシ

第八條 縣稅徵收ノ委任ヲ受ケタル市長ハ本規程ハ外明治三十二年福井縣訓令第三十二號福井縣各廳會計細則第一條第七條乃至第十二條第十九條第二十號第二十一條第二十四條第二十七條第三十三條第三十四條ヲ適用スヘシ

第九條 前條ノ市長ハ毎月納付金ニ對スル縣金庫ノ歲入金突合セ表ヲ徵シ收入額報告書提出ノ際之ヲ添付スヘシ

第十條 本規程ニ掲クル渾テノ書式及記入ノ方法ハ別冊書式ニ依ルヘシ

(書式ハ省畧ス)

●縣稅徵收期限

大正四年三月
縣令第一二號

科 目	納 期 區 分	納 期 月 日
●地 租 割	同同同同大敦同同同同丹同同同坂福第 野賀同同同同生同同同井井第 石上下郡郡國越下箇城雄新竹吉井二 五微穴穴西敦國越下箇城雄新竹吉井二 箇白馬馬谷賀見廻岬浦崎島保田崎市 村村村村村村村村村村村村村村市全額	四月十六日ヨリ同月二十五日限 十二月十六日ヨリ同月二十五日限 九月十六日ヨリ同月二十五日限

營業稅附加稅	酒 杜 氏 稅	營業稅中工業稅ノ內 燒瓦、燒瓦、燒陶器 燒、石灰、炭、燒、莫 製絲、製茶、笠、莫 產製作稅	營業稅	納期
第 二 期	全 額	第 二 期	同今同同同同南同同同 立郡界鹿今武河北味蘆 池鯖界蒜庄生野谷見見 田江 村村村町村村村 同同同同同同同同同	六月十六日ヨリ同月二十五日限 十二月十一日ヨリ同月二十日限 六月十六日ヨリ同月二十五日限 十一月十六日ヨリ同月二十五日限
第 一 期				七月十六日ヨリ同月二十五日限 翌年二月十六日ヨリ同月二十五日限

所得稅附加稅	礦業稅附加稅	賣藥營業稅附加稅	戶數割	家屋稅	料理屋稅	待合茶屋稅	飲食店稅	湯屋稅
第三種ニ對スルモ 第一種ニ對スルモ	試掘區稅ニ對ス 採掘區稅ニ對ス 礦產稅ニ對スルモノ全額	第一 第二 第三	第一 第二	第一 第二	第一 第二	第一 第二	第一 第二	第一 第二
全額	全額	期期	期期	期期	期期	期期	期期	期期
十月十六日ヨリ同月二十五日限	一月十六日ヨリ同月二十五日限	八月十六日ヨリ同月二十五日限 翌年二月十六日ヨリ同月二十五日限	五月十六日ヨリ同月二十五日限 十月十六日ヨリ同月二十五日限	五月十六日ヨリ同月二十五日限 十月十六日ヨリ同月二十五日限	五月十六日ヨリ同月二十五日限 十月十六日ヨリ同月二十五日限	五月十六日ヨリ同月二十五日限 十月十六日ヨリ同月二十五日限	五月十六日ヨリ同月二十五日限 十月十六日ヨリ同月二十五日限	五月十六日ヨリ同月二十五日限 十月十六日ヨリ同月二十五日限

雜

理髮業人稅	遊藝師匠稅	甲船宿稅	遊藝場茶屋稅	芝居場稅	遊藝場メタル者稅	自動車稅	自轉車稅	仲形船稅	日本形船稅	西人洋形船稅	代書人稅	案內業人稅	電柱稅	遊藝稼人稅	水車稅
-------	-------	------	--------	------	----------	------	------	------	-------	--------	------	-------	-----	-------	-----

第一二期

六月十六日ヨリ同月二十五日限	十二月十一日ヨリ同月二十日限	四月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限	六月十六日ヨリ同月二十五日限
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

縣稅徵收期限

二七二

種		毛坂		漁業稅		漁業稅		漁業稅		漁業稅	
待	威	網	網	除	威	除	除	除	除	除	除
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
全		全		全		全		全		全	
額		額		額		額		額		額	
十一月十六日ヨリ同月二十五日限		十一月十六日ヨリ同月二十五日限		四月十六日ヨリ同月二十五日限		四月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限	
十二月十一日ヨリ同月二十日限		十二月十一日ヨリ同月二十日限		十月十六日ヨリ同月二十五日限		十月十六日ヨリ同月二十五日限		十月十六日ヨリ同月二十五日限		十月十六日ヨリ同月二十五日限	
十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十一日ヨリ同月二十日限		十二月十一日ヨリ同月二十日限		十二月十一日ヨリ同月二十日限		十二月十一日ヨリ同月二十日限	
六月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限		六月十六日ヨリ同月二十五日限	

稅

種		毛坂		漁業稅		漁業稅		漁業稅		漁業稅	
待	威	網	網	除	威	除	除	除	除	除	除
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
全		全		全		全		全		全	
額		額		額		額		額		額	
五月十六日ヨリ同月二十五日限		五月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限	
十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限		十二月十六日ヨリ同月二十五日限	
九月十六日ヨリ同月二十五日限		九月十六日ヨリ同月二十五日限		九月十六日ヨリ同月二十五日限		九月十六日ヨリ同月二十五日限		九月十六日ヨリ同月二十五日限		九月十六日ヨリ同月二十五日限	
十一月十六日ヨリ同月二十五日限		十一月十六日ヨリ同月二十五日限		十一月十六日ヨリ同月二十五日限		十一月十六日ヨリ同月二十五日限		十一月十六日ヨリ同月二十五日限		十一月十六日ヨリ同月二十五日限	
其月五日限 (一月ハ)		其月五日限 (一月ハ)		其月五日限 (一月ハ)		其月五日限 (一月ハ)		其月五日限 (一月ハ)		其月五日限 (一月ハ)	
其月十日限		其月十日限		其月十日限		其月十日限		其月十日限		其月十日限	

二七三

縣稅徵收期限

全

額

各届出ノ日

二七四

屠 畜 稅
市場稅ノ内(臨時市場) 稅

納期初日以後新ニ納稅義務ヲ生シタルモノ

納期初日前納稅義務ヲ生シタルモノ

納期前納稅義務ヲ消滅シタルモノ

流送許可ノ日ヨリ十日限

縣稅賦課規則第九條但書ニ依リ市町村會ノ議決ヲ要スルモノハ議決ノ翌月十日限其ノ他ハ届出ノ翌月十日限季稅月稅ニ係ルモノハ其ノ届出ノ日ヨリ五日限但シ時宜ニ依リ即納セシムルコトアルヘシ
各一定ノ納期ニ依ル但シ縣稅賦課規則第九條但書ニ依リ市町村會ノ議決ヲ要スル爲一定ノ納期ニ依リ難キモノハ議決ノ翌月十日限其ノ他ハ時宜ニ依リ五日以內ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトアルヘシ
其ノ届出ノ日但シ時宜ニ依リ五日以內ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトアルヘシ

○水利組合會計事務取扱ニ

關スル件

明治四十一年十月
訓令 第四三號

水利組合ノ會計事務ハ別段ノ規定ニ依ルモノノ外ハ市町村會計規程ニ準據シ取扱フヘシ
明治三十三年^四福井縣訓令第四十一號及明治三十三年一月福井縣訓令第六號ハ廢止ス

○水利組合歳入歳出豫算及決算

説明書様式

明治四十一年十一月
訓令 第五〇號

水利組合歳入歳出豫算及決算説明書ハ別冊様式ニ依リ調製スヘシ

水利組合會計事務取扱ニ關スル件
水利組合歳入歳出豫算及決算説明書様式

二七五

(別冊)

明治何年度某普通水利組合歳入豫算説明

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其ノ理由ハ概テ何何ニ由ル

第一款 組合費

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其ノ理由ハ何何ニ由ル

第二款 夫

本年度云々

第三款 現

本年度云々

第四款 補助金

本年度ニ於テ此ノ補助金アルハ某補助金ニシテ何何ノ理由ニ

ナリ 由リ某費ノ内某費ニ對スルモノ若干(某費ニ對スルモノ若干)

科	歳入	目		備考
		本年度	前年度	
第一項 組合費		豫算高	豫算高	増減
第一項 別割				
第二項 地價割				
第三項 家屋割				
第一目 家屋割				
第一目 地價割				
第一目 別割				
第一目 家屋割				

水利組合歳入歳出豫算及決算説明書様式

水利組合歳入歳出豫算及決算説明書様式

第四項何々		第一目何々	
第二款 夫役	第一目 夫役	夫役何人一人ニ付金何程	
第一款 夫役	第一目 夫役		
第三款 現品	第一目 現品	何品何程一箇(一件)ニ付金何程	
第一款 現品	第一目 現品		
第四款 財産ヨリ生スル收入	第一目 現品		
第一款 現品			
第一項 貸地料			

第二項 小作米		第一目 小作米	
第三項 貸付金	第一目 貸付金	貸付金何程利子何程	
利子	第一目 穀利子	貸付米何程利子何程一石何程	
第四項 公債	第一目 公債	公債額面何程ニ對スル利子百圓ニ付何程	
利子	第一目 利子		
第五項 何々	第一目 何々		
第五款 使用料及手数料	第一目 何々		

水利組合歳入歳出豫算及決算説明書様式

水利組合歲入歲出豫算及決算說明書樣式

第一項堤塘使用料	第二項用惡水路使用料	第三項何使用料	第四項何手數料	第五項何
第一目堤塘使用料	第一目用惡水路使用料	第一目何使用料	第一目何手數料	第一目何
何々外何箇所堤塘使用料	何々用水使用料何程 何々惡水使用料何程		何々何通分一通何程	

第六款雜收入	第七款前年度繰越金	第三項何々	第二項加入金	第一項不用品賣却代品	第一項前年度繰越金
第一目不用品賣却代品	第一目前年度繰越金	第一目何々	第一目加入金	第一目不用品賣却代品	第一目前年度繰越金
古材木賣却代何程 何々賣却代何程	組加入金 田壹段歩二付何程 建物一棟二付何程				

水利組合歲入歲出豫算及決算說明書樣式

第八款 補助金	第一項 國庫補助金	第二項 縣補助金	第三項 郡補助金	第九款 寄付金	第一項 寄付金
	第一目 某補助金	第一目 某補助金	第一目 某補助金	第一目 某補助金	第一目 某補助金
	某費ノ内某費ニ對スル何分補助	某費ノ内某費ニ對スル何分補助	某費ノ内某費ニ對スル補助	某費ヘ某郡市町村某外何人ヨリ出願ノ分	

第十款 組合債	第一項 組合債	第十一款 何々	第一項 何々	歳入 總計
	第一目 組合債		第一目 何々	
	何々事業債			

明治何年度某普通水利組合 歳出豫算説明

歳出經常ニ關スル部

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其ノ理

水利組合歳入歳出豫算及決算説明書様式

由ハ概子何何ニ由ル
 第一款 管理費

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其ノ理由ハ何何ニ由ル

第二款 會議費

本年度云々
 第三款 事業費

本年度云々 (但シ豫算高ノ内金若干ハ某郡市町村某外人ノ寄付金ナリ)

歳出臨時ニ關スル部
 本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其ノ理由ハ概子何何ニ由ル

第一款 事業費

本年度云々

第二款 某

本年度云々

科		歳出經常部		本年度		前年度		比		備		考	
第一項給料	第一項給料	第一項給料	第一項給料	豫算高	豫算高	増	減	帳	帳	備	考	備	考
第一目 書記給料	第一目 書記給料	第一目 書記給料	第一目 書記給料							書記何名月給一名平均何			
第二目 技術員給料	第二目 技術員給料	第二目 技術員給料	第二目 技術員給料							技手何名月給一名平均何			
第三目 雇員給料	第三目 雇員給料	第三目 雇員給料	第三目 雇員給料							雇員何名月給一名平均何			
第四目 使給料	第四目 使給料	第四目 使給料	第四目 使給料							使丁何名月給一名平均何			

水利組合歲入歲出豫算及決算說明書樣式

第二項雜給		第五目何々
第一目旅費		
第二目辨償用		
第三目退隱料		
第四目退職給與金		
第五目死與金		
第六目遺族扶助料		
第七目雇人料		
第八目何々		
		管理旅費何程 郡書記旅費何程 書記及技手旅費何程 常設委員何人費用辨償金 一箇月何程十二箇月分 年額何程何人 同何程何人
		年額何程何人
		態夫賃

第三項需用費		第一目備品費	何々金何程
第二目消耗品費			何々金何程
第三目印刷費			何々金何程
第四目通搬信			郵便電信料何程 運送費何程
第五目雜費			何々借家料何程 新聞廣告料何程
第六目何々			
第四項何々			
第一目何々			
第二款會議費			

水利組合歲入歲出豫算及決算說明書樣式

第一項會議費		第三款 事業費		第一項 用水費	
第一目 議員費	第二目 諸雇給	第三目 議場費	第四目 何々	第一目 修繕費	第二目 何々
議員何名一名一日何程延何十人分	書記何名一名一日何程延何人分何程	備品費何程 消耗品費何程 印刷費何程 議場借家料何程	何々金何程	何々外何々所修繕人夫何人一人一日何程	何々金何程

第二項 植管費		第三項 堰埭費	
第一目 修繕費	第二目 何々	第一目 修繕費	第二目 何々
何々植管修繕何間代何程何々植管附填何間代何程	何々何	何々堰埭修繕費何程	何々何

水利組合歲入歲出豫算及決算說明書樣式

第八款 組合費取扱費	第一項 積立基金蓄積	第一目 堤防復舊積立基金	第二目 何々積立基金	何々基金
	第七款 積立基金蓄積	第一目 番人給	第二目 雜費	証券保護預手數料何程 何々何程
第二項 管理費	第一目 修繕費	第二目 雜費	何々何程	何々何程

第十款 雜支	第九款 何々	第一項 何々	第一目 何々	第一目 何々	第一項 徵收費	第一目 交付金	組合費徵收ニ對スル市町村交付金
			第二目 何々	第二目 何々	第二項 諸金庫費	第二目 滯分納費	差押費何程公賣費何程
第十款 雜出	第九款 何々	第一項 何々	第一目 何々	第一目 何々	第二項 諸金庫費	第一目 何々	一箇月何程十二箇月分

水利組合歲入歲出豫算及決算說明書樣式

第一目何々	
歳出臨時部	合計
歳出	総計

凡例

- 一 歳入豫算ヲ經常臨時ノ二部ニ區分スルノ必要アルトキハ本説明書ノ例ニ準シ區分調製スヘシ
- 二 科目中項ニ屬スルモノ或ル科目ニ於テハ目ニ編入シ目ニ相當スルモノ或ル科目ニ於テハ節ニ編入スヘキ順序トナルコトアルモ要スルニ各科目トモ節ニ區分シ本表備考欄内ニ列記スヘシ
- 三 本説明書ニ増減ハ何何ニ由ルトアル部分ニハ其ノ項以下ニ就キテ理由ヲ記載スヘキモノトス

- 四 歳入歳出トモ他款ニ屬セサルモノハ歳入ハ雜收入中ニ歳出ハ雜支出中ニ適宜項目ヲ設ケ編製スヘシ各款内ニ於テ項目ノ本例ニ記載ナキ別項目ヲ設クルノ要アルトキ亦同シ
- 五 歳入歳出共前年度ニ豫算ノ款項目アリテ本年度ニ該當科目豫算ナキモノハ款ハ各部ノ末尾ニ項目ハ該當款項ノ末尾ニ各其ノ科目金額ヲ掲出スヘシ
- 六 出納閉鎖後前年度所屬ノ收入支出ニシテ本年度豫算ニテ收入若ハ支出ヲ要スルモノハ收入ニ在テハ雜收入中ニ過年度收入ノ一項目ヲ設ケ支出ニ在テハ雜支出中ニ過年度支出ノ一項目ヲ設ケ整理スヘシ
- 七 決算ハ本様式ニ準シ調製スヘシ
説明書中前年度ノ豫算ニ對スル増減比較ハ豫算ニ對スル決算額差引増減ノ理由ヲ説明シ表式中本年度豫算高トアルハ本年度決算高ニ前年度豫算高トアルハ本年度豫算高ニ改ムヘシ

市町村ニ於テ水利組合費賦課徴收スル場合
取扱方ノ件

三〇〇

但シ備考ハ記載ヲ要セス

●市町村ニ於テ水利組合費賦課徴收

スル場合取扱方ノ件

大正三年五月
訓令第一一號

町村ニ於テ水利組合法第五十四條ニ依リ組合費其ノ他組合ノ收
入ヲ賦課徴收スルトキハ市町村稅其ノ他市町村ノ收入ヲ徴收ス
ル例ニ準シ取扱ヒ之カ受拂ハ縣稅ノ例ニ據リ受拂簿ヲ設ケ整理
スヘシ

附 則

明治二十四年^四福井縣訓令第一號ハ之ヲ廢止ス

●貴族院多額納稅者議員互選規則

取扱方

明治二十三年三月
告示 第三〇號

明治二十二年(六月)勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選
規則取扱方ニ付左ノ各項內務大臣ヨリ訓令アリタリ

- 一 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)
前滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス
- 二 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ
衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス
- 三 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ
工業商業ノ利益ヨリ生スル所得稅額而已ヲ合算シテ名簿調
製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍
引續キ納ムルモノヲ云フ
- 四 賣買讓與等ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テハ地租ハ土
地台帳記名者ノ納稅資格ニ算入シ又質入ノ地租ハ質權者ノ
納稅資格ニ算入ス數入共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方
及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡
貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

三〇一

貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方
衆議院議員選舉投票函ニ封印ヲ施スノ件

五
テ衆議院議員選舉法施行規則第五條第九條ノ例ニ異ナラス
貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ
華族(公侯爵ヲ除ク)ノ當主ヲモ包含ス
貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任
期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサ
レハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

六
○衆議院議員選舉投票函ニ封印
ヲ施スノ件

明治三十五年五月
縣令 第四四號

衆議院議員選舉法施行令第二十條ノ鎖及鑰ハ投票函閉鎖後之ヲ
封緘シ投票管理者及投票立會人ニ於テ封印ヲ施スベシ

○衆議院議員選舉會參觀ニ關スル件

明治三十五年五月
縣令 第四五號

衆議院議員選舉會ニ參觀ヲ求ムル選舉人ハ市町村長ノ證明ヲ得
テ選舉會場ヘ其ノ證明書ヲ差出スヘシ
前項ノ證明書ハ左ノ様式ニ據ルヘシ

証式

明書

何郡(市)町村大字

族籍職業

何

生年 月

某

右衆議院議員選舉人タルコトヲ證明ス

年 月 日

何郡(市)町村長

何

某

印

○衆議院議員選舉ニ關スル立會人費

用支給規則

明治四十二年四月
縣令 第二一號

衆議院議員選舉會參觀ニ關スル件
衆議院議員選舉ニ關スル立會人費用支給規則

第一條 衆議院議員選舉投票立會人開票立會人及選舉立會人職務ノ爲要スル費用ハ本規則ニ依リ支給ス

第二條 前條職務ノ爲要スル費用ハ瀛車賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ五種トシ其ノ額ハ別表ニ依ル但シ立會人其ノ居住スル投票區内ニ於テ特ニ宿泊ヲ要シタル場合ノ宿泊料ハ別表ノ半額トス

第三條 瀛車賃、船賃、車馬賃ハ立會人其ノ居住地ヨリ投票區外ニ旅行スル場合ニ限リ順路ニ依リ哩數、海里數又ハ里數ニ應シ支給ス

日當ハ旅行又ハ職務ニ從事シタル日數ニ應シ宿泊料ハ旅行中又ハ特ニ職務地ニ宿泊ヲ要シタル夜數ニ應シ支給ス

第四條 瀛車賃、船賃、車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿ノ端數ハ切捨トス

別表

鐵道賃	一哩	付	船賃	一海里	付	車馬賃	一里	付	日當	一日	付	宿泊料	一夜	付
參錢			參錢			拾錢			貳拾錢			六拾錢		

衆議院議員選舉事務取扱手續

明治三十五年四月
訓令 第一二號

第一條 衆議院議員選舉法第二十二條ニ依リ選任シタル投票立會人其ノ職ヲ辭シタル場合ニ於テ選舉ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存スルトキハ全條ニ依リ更ニ投票立會人ヲ選任スヘシ

第二條 衆議院議員選舉法施行令第二條ニ依リ郡長ニ於テ投票管理者ヲ指名シタルトキハ速ニ其ノ官職氏名ヲ知事ニ報告スヘシ

第三條 投票所ハ概略別記様式ニ從ヒ選舉人ノ多少ニ依テ適宜

衆議院議員選舉事務取扱手續

三〇五

之ヲ斟酌シ受付所、選舉人名簿對照、投票簿捺印及投票用紙交付所、投票記載所、投票ノ場所等ヲ設備スヘシ

第四條 投票ハ投票記載ノ爲メ設ケタル卓上ニ於テ之ヲ記載セシメ其ノ記載終リタルトキハ直ニ投函セシムヘシ
投票記載ノ爲メ設ケタル卓上ニハ筆硯墨ヲ備ヘ置キ投票記載ニ支障ナカラシムヘシ

第五條 衆議院議員選舉法第二十條ニ依リ知事ノ許可ヲ受クルヲ要スル投票所ハ投票管理者ニ於テ可成門戸アル場所ヲ選定シ其ノ所在字番地家屋ノ種類構造、裝置ノ模様及其坪數ヲ略圖ニ記載シ臨時ノ場合ヲ除クノ外選舉期日廿五日以前ニ市ハ直ニ町村ハ郡長ヲ經テ申請書ヲ差出スヘシ
郡長ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ審査ノ上即日知事ニ進達スヘシ

第六條 衆議院議員選舉法第五十一條ニ依リ知事ノ許可ヲ受クルヲ要スル開票所ハ可成門戸アル場所ヲ選定シ臨時ノ場合ヲ除クノ外選舉期日廿日以前ニ申請スヘシ

第七條 郡長ニ於テ投票用紙及封筒ヲ各投票所ニ配付スルトキハ投票所毎ニ其ノ數ヲ記シ配付スヘシ
殘餘及汚損ノ投票用紙及封筒ハ投票終了ノ後直ニ明細書ヲ添ヘ町村ハ郡長ニ市ハ知事ニ返還シ郡長ニ於テハ町村ヨリ返還セシ分ヲ取纏メ更ニ知事ニ返還スヘシ

第八條 衆議院議員選舉法施行令第二條三第三條ニ依リ選舉人名簿ヲ投票管理者ニ送付スルハ選舉期日十日以前タルヘシ
第九條 選舉人出入ノ門戸投票所出入口等ニハ警察官吏ノ出張ヲ請ヒ又ハ特ニ設ケタル取締人ヲ配置シ取締ヲ嚴ニスヘシ
第十條 衆議院議員選舉法第四十條ニ依リ投票函閉鎖ノ後ハ開票管理者ニ送致スル迄ノ間投票函ハ之ヲ投票所外ニ轉送スル

コトヲ得ス

第十一條 衆議院議員選舉法施行令第十條ニ依リ投票管理者ニ於テ投票所入場券及到着番號札ヲ選舉人ニ交付スルトキハ別記様式ニ依リ調製シ投票所入場券ハ投票期日前少クトモ三日以前ニ之ヲ選舉人へ配布スヘシ

第十二條 衆議院議員選舉法第四十四條ニ依ル届出ハ電報又ハ急使ヲ以テスヘシ

第十三條 投票簿、投票録、開票録、點數簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ投票録開票録ハ謄本ヲ調製シ選舉人又ハ被選舉人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閲覽セシムヘシ

第十四條 投票所開票所ニハ各其ノ門戸ニ標札ヲ掲クヘシ

第十五條 選舉人名簿確定シタルトキハ郡市長ハ其ノ有權者總數ヲ知事ニ報告スヘシ

第十六條 選舉人名簿用紙ハ毎年八月三十日迄ニ町村ハ郡長ニ

市ハ知事ニ請求スヘシ
郡長ハ各町村ノ請求ヲ取纏メ毎年九月一日迄ニ知事ニ請求スヘシ

(様式畧ス)

投票録様式

福井縣郡市町村衆議院議員投票所投票録

欄上
何年何月何日
投票執行

- 一 投票所ハ何町村役場(何市役所)(何ノ場所)ニ之ヲ設ケタ
- 二 左ノ投票立會人ハ何レモ投票時刻マテニ投票所ニ參會シタリ

住所	氏名
住所	氏名

衆議院議員選舉事務取扱手續

投票時刻ニ至リ投票立會人中何名參會セサルニ由リ投票
管理者ハ臨時ニ投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ左ノ者ヲ
投票立會人ニ選任シタリ

住所 氏 名

三 投票場ハ何年何月何日午前第七時ニ之ヲ開キタリ

住所 氏 名

四 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午後第何時何々ノ
事故ヲ以テ其職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ
投票管理者ハ臨時ニ投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ午後
第何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所 氏 名

五 投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票所ニ參集

シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコ
トヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ投票管理者及投票立會人ノ列
席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六 投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ逐次
其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ且ツ投票
簿ニ捺印セシメタル後(到着番號札ト引換ニ)投票用紙ヲ
交付シタリ

七 選舉人ハ自ラ投票ヲ認メ之ヲ投票函ニ投入シタリ
投票管理者ハ左ノ選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト
能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル
旨ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ従事スル職氏名ヲシテ之
ヲ筆記セシメ之ヲ選舉人ニ讀ミ聞カセ選舉人ヲシテ之ニ
署名捺印セシメタリ

住所 氏 名

投票管理者ハ左ノ選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ノ宣言ヲ命シタルモ其ノ宣言ヲ爲サ、ルニ依リ本人ニアラスト認メ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住所氏名

九 左ノ選舉人ハ選舉人名簿ニ登録ナキモ之ニ登録セラレヘキ確定判決書ヲ所持シ投票所ニ到着シタルニ依リ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシメタリ

住所氏名

十 左ノ選舉人ハ何々ノ理由ニ依リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ

住所氏名

左ノ選舉人ハ何々ノ理由ニ依リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否スヘキ旨決定シタルモ同選

十一 舉人ニ於テ不服ヲ申立ツルヲ以テ(投票立會人氏名ニ於テ異議アルヲ以テ)假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住所氏名

十二 左ノ選舉人ハ誤テ投票用紙、封筒ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙、封筒ヲ交付シタリ

住所氏名

十三 左ノ選舉人ハ投票所ニ於テ演説討論ヲ爲シ(喧騒ニ涉リ)(投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ)(何々ニ因リ)投票所ノ秩序ヲ紊リタルニ依リ投票管理者ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ従ハサルヲ以テ投票用紙(到着番號札)ヲ取上ケ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住所氏名

十四 投票管理者ハ投票所ノ入口ヲ鎖スニ先チ投票所外ニ退

十二 出ヲ命シタル選舉人ニ對シ入場ヲ許シタルニ左ノ選舉人
入場シタルヲ以テ投票セシメタリ

十四 午後第六時ニ至リ投票管理者ハ投票所ヲ閉ツヘキ時刻
ニ至リタル由ヲ告ケ投票所ノ入口ヲ鎖シタリ

十五 午後第何時投票ニ在ル選舉人ノ投票終了シタルヲ以テ
投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及

外蓋ヲ鎖シタリ

十六 投票函ヲ閉票シタルニ依リ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送
致スヘキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理

者之ヲ保管ス

十七 投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘ
キ投票立會人左ノ如シ

十八 式左ノ何名ハ投票所ノ事務ニ從事シタリ 氏 名

職 氏 名

十九 投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ 官 職 氏 名

二十 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數 何 人名

投票シタル選舉人ノ總數 何 人名

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數 何 人名

廿一 假ニ投票ヲ爲サシメタル者 何 人名

以上ノ外投票ニ關シ投票管理者ニ於テ緊要ト認ムル事
項アルトキハ之ヲ記載スヘシ
投票管理者ハ此ノ投票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上投票立

會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

投票管理者
何市町村長
投票立會人

氏 氏 氏
氏 氏 氏
名 名 名

開票錄樣式

福井縣郡市衆議院議員開票所開票錄

欄上
何年何月何日
開票執行

一 開票所ハ何郡市役所(何ノ場所)ニ之ヲ設ケタリ
二 開票時刻マテニ開票所ニ參會シタ
三 左ノ開票立會ハ何レモ開票時刻マテニ開票所ニ參會シタ
リ

六

住所 氏 名
住所 氏 名
住所 氏 名

開票時刻ニ至リ開票立會人中何名參會セザルニ依リ開票
管理者ハ臨時ニ開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ左ノ者ヲ
開票立會人ニ選任シタリ

住所 氏 名

三

何年何月何日各投票所投票函總テ到達シタルヲ以テ (郡)
何年何月何日投票了リタルヲ以テ (市)

四

其ノ翌何日開票所ヲ開キ午前第何時ヨリ開票ヲ行フ
開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前後第何時何々
ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ
由リ開票管理者ハ臨時開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ午
前後第何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

衆議院議員選舉事務取扱手續

五

開票管理者ハ開票立會人ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

住所 氏名

四

投票數
投票人數

何 票

三

假ニ爲シタル投票數
假ニ爲シタル投票人數

何 票 何 人

六

投票總數ト投票人總數ト符合セリ
投票總數ト投票人總數ト符合セス即投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多ク又ハ少シ(其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スヘシ)
投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニ於テ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住所 氏名

開票管理者ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聞キ左ノ通之ヲ決定シタリ

一一

事由何々
事由何々
受理セシモノ

住所 氏名
住所 氏名
住所 氏名

一一

事由何々
事由何々
開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢シ開票管理者ハ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シタリ

住所 氏名
住所 氏名
住所 氏名

八

選舉事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二名ハ投票記載ノ氏名ノ朗讀ニ應シ各別ニ同一被選舉人ノ得票ヲ點數

九

簿ニ記入シ且其ノ一名ニ於テ各被選舉人ノ得點ヲ記入スル毎ニ其ノ得票數ヲ呼ヒ他ノ一名ト共ニ其ノ得票數ヲ核合シタリ

開投票管理者ニ於テ開票立會人ノ意見ヲ聽キ有効又ハ無効ト決定シタル投票左ノ如シ

一 有効ト決定シタルモノ 何 票

一 無効ト決定シタルモノ 何 票

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ 何 票

二 投票中二人以上ノ被選人ヲ記載シタルモノ 何 票

三 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ 何 票

四 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ 何 票

五 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ 何 票

總計

十 午後第何時投票ノ點檢ヲ了リタルヲ以テ開票管理者ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀シタリ

十一 被選舉人ノ得票數左ノ如シ 何 票 氏 名

十二 開票管理者ハ點檢濟投票ノ有効無効及不受理ノ決定アリタル投票ヲ大別シ尙有効ノ決定アリタル投票ニ在テハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無効ノ決定アリタル投票ニ在テハ之ヲ類別シテ各別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印シタリ

十三 午前第何時開票所ノ事務ヲ結了ス

十四 左ノ何名ハ開票ノ事務ニ從事シタリ

衆議院議員選舉事務取扱手續

衆議院議員選舉事務取扱手續

三二二

官職氏名
官職氏名

十五 開票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職氏名

十六 以上ノ外開票ニ關シ開票管理者ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

投票管理者ハ此ノ開票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

開票管理者 氏名

何郡市長 氏名

開票立會人 氏名

氏名

點數簿様式

用紙美濃紙

氏名

得票總數		氏名	
一	二	一	二
〇	〇	一〇	一
〇	〇		二
〇	〇		三
〇	〇		四
			五
			六
			七
			八
			九
			一〇
二〇		三〇	
四〇		五〇	
六〇		七〇	
八〇		九〇	
一〇〇		一〇〇	
一〇〇		一〇〇	

衆議院議員選舉事務取扱手續

三二三

投票所入場券様式
用紙程村又ハ西ノ内十二切

日	投票ノ	場	投票ノ	選舉人ノ	住所氏名	選舉人名簿ノ番號	第	號
何年何月何日午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ				何郡(市)何町村何番地何々	何	某		

裏

一 投票當日必ス印章ヲ携帯スヘシ
 一 此券表面姓名ノ下ニ印章ヲ捺シ投票ノ當日受付所ニ差出シ之ヲ引換ニ到著番號札受取ルヘシ
 年 月 日
 何郡(市)何町村投票管理者
 官職 氏 名 印

到著番號札様式 用紙程村又ハ西ノ内十六切

投票所到着第 番 管理 者印

衆議院議員選舉人名簿異動通知
二關スル件

衆議院議員選舉事務取扱手續
 明治三十五年四月
 訓令 第一五號
 三二五

衆議院議員選舉人名簿ニ登録セラレタル者同選舉區内ノ他ノ郡町村ニ住所ヲ轉シタルトキハ原住所地ニ於テ投票スヘキモノナルヲ以テ選舉人ノ轉住シタル時ハ原住所地町村長ヨリ現住所地町村長ニ選舉人名簿ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ通知スヘシ
現住所地町村長ハ前項轉住者ノ選舉資格ニ欠缺ヲ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク其事由ヲ原住所地町村長ニ通知スヘシ

○衆議院議員選舉事務取扱ニ關スル件

明治三十五年五月
訓令 第二二號

一 衆議院議員選舉法施行令第二條第二號及第三條第一號ニ依リ郡長ニ於テ投票管理者ヲ指名シタルトキハ直ニ其ノ投票區内ニ告示シ該告示ハ知事ニ即報スヘシ

二 削除

衆議院議員選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到リタル選舉人ニ投票セシメタルトキハ投票管理者ハ其ノ確定判決書ヲ謄寫シ投票録ニ添付シ開票管理者ニ交付スヘシ

四

五

衆議院議員選舉法第二十五條ノ訴訟アリタルトキハ其ノ不服ノ理由ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ
衆議院議員投票所及開票所ノ事務ニ従事スル官吏吏員ハ選舉期日二十日以前ニ郡市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ其ノ官職氏名ヲ報告スヘシ
但爾後選舉期日迄ニ異動アルトキハ其ノ時々之ヲ即報スヘシ

○納稅成績表彰規程

衆議院議員選舉事務取扱ニ關スル件

明治三十九年一月
訓令 第一號

三二七

- 第一條 市町村ニ於テ徵收スル國稅縣稅及市町村稅ノ納付成績優良ナル市町村ハ此ノ規程ニ依リ表彰ス
- 第二條 表彰スヘキ市町村ニハ表彰狀ヲ授與シ之ヲ管内ニ告示ス
- 第三條 表彰狀ハ其ノ謄本ヲ作り常ニ當該市役所町村役場内ニ揭示シ尙其ノ市町村ノ揭示場ニ揭示スヘシ
- 第四條 市町村長ハ別紙様式ニ依リ毎年度ノ納稅成績表ヲ調製シ四月三十日限リ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告シ郡長ハ審査ノ上該報告ニ依リ町村別一覽表ヲ製シ知事ニ報告スヘシ
- 第四條 表彰セラレタル市町村ノ納稅成績不良トナルトキハ表彰狀ヲ返納セシム

明治何年度納稅成績表

市町村名	國稅		縣稅		市町村稅		計	
	納期收入額	賦課額	納期收入額	賦課額	納期收入額	賦課額	納期收入額	賦課額

備考

一 賦課額ノ欄ハ國稅縣稅ニ在リテハ市町村ニ於テ徵收スル國稅縣稅ノ總額、市町村稅ニ在リテハ全市町村ニ屬スルモノ、外一部一區ニ係ルモノモ總テ合算掲記シ納期收入額ノ欄

ニハ賦課額ノ内納期限内ニ收入ヲ了シタル金額ヲ掲記スルモノトス

一 收入歩合ハ賦課額ト納期收入額トノ千分比例ヲ掲クヘシ

一 市町村内ニ於テ納稅組合ヲ設置シ又ハ日掛ケ法ヲ設クル等納稅ニ關シ特種ノ施設アルモノハ其ノ規約又ハ方法ノ要領ハ備考トシテ本表末尾ニ記載スヘシ

○市町村吏員表彰規程

明治四十一年七月
訓令 第三三號

第一條 市町村吏員ニシテ市町村事務ニ勤勉シ教育、産業、衛生、土木等ノ發達ニ力メ又ハ庶務ノ整理ヲ圖リ勞効顯著ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルモノハ本規程ニ依リ表彰ス

市町村ニシテ其ノ事業發達シ又ハ事務整理シ他ノ模範ト爲スニ足ルモノ亦前項ニ準シ表彰スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ表彰スヘキモノハ表彰狀ヲ授與シ縣報ヲ以

テ其ノ事績ノ概要ヲ公示ス

第三條 郡長ニ於テ町村吏員若ハ町村ニシテ第一條ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ知事ニ具申スヘシ

- 一 町村一般ノ狀況
- 二 事業ノ興廢并現況
- 三 事務整理ノ狀況
- 四 町村吏員ニ就テハ其ノ履歷前各號ノ外緊要ト認ムル事項

○市町村罹災救助準則

明治三十四年二月
訓令 第五號

第一條 市町村ハ水火風震其ノ他不虞ノ災害ニ罹リタル窮民アルトキハ之ヲ救助スルモノトス

第二條 救助ハ概シテ食料給與、小屋掛給與、被服給與及傷痍疾

市町村吏員表彰規程
市町村罹災救助準則

病者施療ノ四種トス但シ其ノ種類ハ市町村ノ事情ニ依リ之ヲ増減スルコトヲ得

第三條 食料給與ハ焚出シヲ爲シ又ハ食品ヲ給與スルモノトス

第四條 小屋掛給與ハ小屋掛ヲ爲シ又ハ其ノ材料ヲ給與スルモノトス

第五條 給與ハ總テ現品ヲ以テスヘシ但シ事宜ニ依リ代料ヲ以テスルコトヲ得

第六條 罹災者救助ノ程度方法等ハ市町村會ノ議決ヲ經之ヲ定メ町村ハ郡長市ハ知事ニ報告スヘシ

○罹災救助基金支出及管理方法

明治三十二年八月
縣令第七三號

第一章 支出方法

第一條 避難所費ノ細目左ノ如シ

一 避難所借上料又ハ假小屋建設費

一 避難所日用品費及物件借上料其ノ他避難ノ爲必要ナル雜費

第二條 食料費ノ細目ハ左ノ如シ

一 米及必要ナル副食物

米ハ下白米ヲ以テシ左ノ割合ニ依リ給與ス

男	一人	一日	四	合
女	一人	一日	三	合
七十歳以上 十五歳未満	一人	一日	三	合

一 焚出ニ要スル薪炭費其ノ他物品借上料人夫賃等

第三條 被服費ハ季節ヲ參酌シ左ノ範圍内ニ於テ給與ス

一 木綿單衣、袴、綿入ノ内 一人 一枚

一 木綿襦袢 季節ニヨリ必要アルトキ 一人

一 木綿帶 一人

右ノ外必要缺クヘカラサル附屬品

第四條 治療費ノ細目左ノ如シ

一 手術料

一 藥價

一 醫師看病人備費其ノ他治療ノ爲必要ナル雜費

第五條

一 小屋掛費ハ左ノ範圍内ニ於テ建設シ又ハ材料ヲ給與ス
小屋掛ノ建坪ハ左ノ制限以内トシ構造ハ柱、桁、梁、合掌木ハ杉丸太材、屋根ハ小前唐竹、藁苔葺、周圍ハ横竹、蕙釣、總テ藁繩結、間内土間上ハ糊糠又ハ藁敷ノ上蕙敷込トス

一 戸一人

建坪一坪

一 戸一人以上ハ一人毎ニ建坪五合ヲ増ス

全ク家屋ヲ亡失セスト雖モ雨露ヲ凌クニ堪ヘサルモノハ其ノ現況ニ依リ材料ノ幾分ヲ補給スルコトアルヘシ

第六條

就業費ハ季節及業体ヲ參酌シ労働ニ従事スル人員ニ應シ一人ニ付價格金貳圓以内ニ於テ就業ノ爲必要ナル資料又ハ器具ヲ給與ス但シ一家ヲ通シテ價格金拾圓ヲ超ヘサルモノトス

分割スヘカラサル器具ニシテ共同使用ニ係ルモノハ價格ノ大ナルモノト雖モ被給者各自ニ分割シ前項ノ金額ヲ超ヘサルトキ又ハ超過スルモ其ノ額僅少ナルトキハ其ノ器具ヲ給與スルコトアルヘシ

第七條

第二條第三條及第五條ノ給與品中品質ヲ定メタルモノニシテ其ノ物品ヲ得ヘカラサルカ又ハ代用品ヲ以テスルヲ便トスル等ノ場合ニ於テハ他ノ相當品ヲ換給スルコトアルヘシ

第二章 管理方法

第八條 有價証券及其ノ他ノ証券ハ縣廳ニ於テ保管ス但シ有價証券ハ日本銀行ヘ保護預ケト爲スコトアルヘシ

第九條 銀行ヘ預ケ金ヲ爲ストキハ擔保品ヲ徵スルモノトス
現金ハ擔保品ヲ徵シ縣金庫ヲシテ保管出納セシム擔保品ハ國債証券又ハ地方債証券ニ限ル其ノ價格ハ知事ノ定ムルトコロニ依ル

第十條 救助ニ要スル物品ハ郡市町村長ニ保管セシムルコトヲ得

第十一條 國債証券地方債証券又ハ物品ノ賣買貸借ハ競争入札ニ附スルモノトス但シ至急ヲ要シ若ハ國債証券募集ニ應シ又ハ經濟上必要ト認ムルトキハ隨意契約スルコトヲ得

市町村罹災救助資金補助規則

明治四十一年一月
縣令第八號

第一條 市町村ニ於テ罹災救助ノ方法ヲ設ケ資金ヲ貯蓄スルトキハ本縣罹災救助基金ヨリ之ヲ補助ス

第二條 補助ハ一箇年度ノ總額金壹萬五千圓ヲ限リトシ明治四十一年度以後市町村ニ於テ毎年度市町村稅ヲ以テ積立テタル金額ニ割合ヒ其ノ翌年度ニ於テ之ヲ交付ス但シ每市町村ノ補助額市町村稅ヲ以テスル積立額ヨリ超過スル場合ハ其ノ積立額ト同額ニ止ム

第三條 市町罹災救助資金ノ貯蓄額其ノ市町村年度初ノ縣稅戶數割、賦課戶數又ハ縣稅、家屋稅賦課軒數ニ金拾圓ヲ乘シタル金額ト同額ニ達スルトキハ其ノ市町村ニ對スル補助ヲ停止ス

第四條 本縣罹災救助基金ノ貯蓄額罹災救々基金法第三條ノ制限額ヲ下ルコトアルトキハ其ノ制限額以上ニ達スルマテ補助ヲ停止ス

第五條 町村組合ニシテ市町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモ
ノハ之ヲ一町村ト看做ス

市町村罹災救助資金監督規程

明治四十一年二月
縣令 第一三號

第一條 市町村罹災救助資金ハ其ノ市町村ノ罹災救助費ニ充ツ
ルノ外他ノ費途ニ支出スルコトヲ得ス

第二條 市町村罹災救助資金ハ特別會計トシ其ノ運用ハ左ノ範
圍ヲ出ツルコトヲ得ス

- 一、國債地方債又ハ日本勸業銀行日本興業銀行福井縣農工銀
行債券ノ募集ニ應シ若ハ該証券ヲ買入ル、コト
- 二、大藏省預金若ハ郵便貯金ト爲スコト

三、擔保品ヲ徵シ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲スコト但シ擔
保品ハ第一號ニ掲クル有價証券ニ限リ其ノ擔保價格ハ時價
以內タルヘシ

第三條 市町村罹災救助資金ノ貯蓄額、市町村罹災救助資金、
補助規則第三條ノ金額以上ニ達シタル市町村ニ於テ其ノ永久
ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルカ若ハ天災事變等ノ爲市町村
債ヲ起スノ必要アル場合ニ限リ知事ノ許可ヲ受ケ資金二分ノ
一以內ノ金額ヲ一般會計ニ繰入ル、コトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ年五分以上ノ利子ニ相當スル金額ヲ加ヘ資金ニ繰戻スノ方
法ヲ定メ併テ知事ノ許可ヲ受クヘシ
前項一般會計ニ繰入レタル金額ハ市町村罹災救助資金補助規
則ニ關シテハ之ヲ現存資金ト看做ス

附 則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

市町村罹災救助資金監督規程

○罹災救助基金補助請求書式ノ件

明治四十一年十月
訓令 第四四號

市町村罹災救助資金補助規則ニ依リ本縣罹災救助基金ノ補助ヲ受クヘキ市町村ハ左ノ書式ノ請求書ヲ作り前年度末罹災救助資金現在高調並前年度罹災救助資金歳入歳出決算書ヲ添へ毎年七月三十一日限市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ提出スヘシ
前項町村ノ請求書ハ郡長審査ノ上全部取纏八月三十一日限知事ニ進達スヘシ

(書式)

罹災救助資金補助請求書

一金 何 程 大正某年度罹災救助資金市(町)(村)税積立額
右積立候ニ付市町村罹災救助資金補助規則ニ依リ相當補助相成
度別紙當該年度末罹災救助資金現在高調並歳入歳出決算書相添

此段請求候也

年 月 日

市(町)(村)長 氏

名 印

福井縣知事宛

備考

一、資金現在高調ハ左ノ書式ニ依リ當該年度末決算ノ資金現在高ヲ記載シ罹災救助資金歳入歳出決算書ハ出納閉鎖後收入役ヨリ提出シ市町村長ニ於テ審査シタルモノヲ謄寫シ添付スヘシ

大正某年度末罹災救助資金現在高調

一金 何 程 罹災救助資金現在高

内 譯

現金

金 何 程 國債証券何百圓原價

金 何 程 何地方債証券何百圓原價

罹災救助基金補助請求書式ノ件

金 何 程 何債券何拾圓原價

金 何 程 大藏省預金

金 何 程 郵便貯金

金 何 程 何品(給與品)何程原價

一、大正某年四月一日現在縣稅戶數割賦課戶數(縣稅家屋稅
賦課軒數)何百何十何戶(軒)
右之通候也

○罹災救助規程

明治四十四年三月
訓令第六號

第一條 罹災救助基金法ニ依ル救助ノ事務ハ郡市長ニ於テ取扱
フヘシ

町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ受ケ救助ノ事務ヲ補助スヘシ
第二條 非常災害ニ際シ郡市長ニ於テ罹災救助基金法ノ救助ヲ

必要ト認めタルトキハ其ノ狀況及救助ヲ要スル戸數、人員及
救助費目別ノ見込額等ヲ具シ知事ニ急報シ指揮ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ知事ノ指揮ヲ受クルノ暇ナキトキハ一時應
急ノ救助ニ限リ郡市長ニ於テ直ニ施行シ又ハ町村長ヲシテ施
行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ事由ヲ知事ニ
報告スヘシ

第三條 避難所ハ寺院學校其ノ他適當ノ建物ヲ借入レ之ニ充ツ
ヘシ但シ適當ノ建物ナキ場合ニ於テハ假小屋ヲ設クルコトヲ
得

避難所開設日數ハ災害ノ當時及災害ノ去リタル後五日ヲ超ヘ
サルモノトス但シ第八條ノ小屋掛又ハ其ノ材料給與ニ代ヘ避
難所開設日數ヲ三十日以内延長スルコトアルヘシ

第四條 罹災ノ爲自ラ豊炊ヲ爲ス能ハサルモノニ限リ災害ノ當
時及災害ノ去リタル後三日以内焚出ヲ給與ス但シ水災ニシテ

被害浸水ニ止マルモノハ床上浸水中ノ日數ニ限ル
副食物ハ鹽、味噌、梅干、漬物ノ類トシ焚出給與中ニ限リ之ヲ給ス

第五條 罹災ノ爲自活ノ途ヲ失ヒ飢餓ニ迫ル者ハ郡市長ノ具申ニ依リ特ニ三十日以内食料米ヲ給與スルコトアルヘシ但シ焚出ヲ給與シタル場合ニ於テハ其ノ日數ヲ控除スルモノトス

第六條 罹災ノ爲被服ヲ亡失シ自ラ給スルコト能ハサルモノニ限リ左ノ範圍内ニ於テ春季及秋季ハ裕、襦袢、夏季ハ單衣、冬季ハ綿入、襦袢各壹枚及帶壹筋其ノ他必要ナル附屬品ヲ給與ス

- 一 木綿單衣 十三歳以上 金壹圓拾錢以内
- 一 木綿單衣 十三歳未満 金八拾五錢以内
- 一 同 裕 十三歳以上 金壹圓八拾錢以内
- 一 同 裕 十三歳未満 金壹圓四拾錢以内

- 一 同 綿入 十三歳以上 金貳圓以内
- 一 同 襦袢 十三歳未満 金壹圓五拾錢以内
- 一 同 襦袢 十三歳以上 金五拾錢以内
- 一 同 襦袢 十三歳未満 金四拾錢以内
- 一 同 帶 十三歳以上 金貳拾錢以内
- 一 同 帶 十三歳未満 金拾五錢以内
- 一 其ノ他必要ナル附屬品 金拾貳錢以内

第七條 罹災者ニシテ傷痍疾病ヲ治療スル途ナキ者ニ限リ災害ノ當時及災害ノ去リタル後七日以内治療ヲ爲スコトアルヘシ但シ特別ノ事情アルモノニ限リ知事ノ許可ヲ得テ治療日數ヲ延フルコトヲ得

第八條 罹災ノ爲雨露ヲ凌ク能ハスシテ自ラ小屋掛ヲ營ムノ資力ナキ者ニ限リ小屋掛又ハ其ノ材料ヲ給與ス
小屋掛ハ通常長屋建トス

第九條 罹災救助基金法第十四條ニ依リ郡市長ニ於テ就業ノ資料又ハ器具給與ノ必要アリト認ムルトキハ第一號様式ノ調書ヲ添ヘ災害ノ去リタル後十五日以内ニ知事ニ具申シ指揮ヲ請フヘシ

第十條 罹災救助基金支出及管理方法第七條ニ依リ他ノ相當品ヲ換給スル場合ニ於テハ時價同額以内トス

第十一條 救助ニ關シ同居同炊者ハ之ヲ家族ト看做ス

第十二條 食料(炭出ヲ除ク)被服、小屋掛材料及就業ノ資料若ハ器具ヲ給與シ又ハ傷痍疾病者ノ治療ヲ施ストキハ第二號乃至第七號様式ノ物品給與簿、傷病者治療簿ヲ製シ種類員數其ノ他ノ要件ヲ記載シ戸主又ハ相當代人ヲシテ給與又ハ治療ヲ受ケタル証印ヲ爲サシムヘシ

第十三條 郡市長ニ於テ救助ヲ執行スルトキハ各費目別ノ救助

費額概算書ヲ作り速ニ知事ニ提出スヘシ其ノ仕拂ハ債主ノ請求書ヲ徴シ第八號乃至第十三號様式ノ計算書ヲ添附シ知事ニ請求スヘシ

前項ノ救助費ハ其ノ仕拂命令ヲ郡市長ニ委任スルコトアルヘシ

第十四條 郡市長ハ給與品受拂簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ登記シ結了後十日以内ニ第十四號様式ノ受拂報告書ヲ調製シ知事ニ提出スヘシ

(様式ハ省畧ス)

◎ 慈惠救濟資金管理規程

明治三十年九月
告示第一二九號

第一條 慈惠救濟資金ハ知事之ヲ管理シ縣廳ニ於テ之ヲ保管ス但シ有價証券ハ日本銀行へ保護預ケト爲スコトアルヘシ

罹災救助規程
慈惠救濟資金管理規程

第二條 慈惠救濟資金ハ縣經濟中特別會計ヲ以テ之ヲ整理ス

第三條 慈惠救濟資金ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ運用スルモノト

ス

一 確實ナル有價証券ヲ買入レ又ハ其ノ募集ニ應スルコト

二 大藏省預金又ハ郵便貯金ニ預ケ入ルルコト

三 確實ナル擔保品ヲ徵シ銀行ニ預ケ入ルルコト

四 縣事業ノ爲必要アルトキハ其ノ使用ニ充ツルコト但シ本

文ノ充用金ハ利子ニ相當スル金額ヲ加ヘ戻入ヲ受タルモ
ノトス

五 公共團體ニ對シ必要ト認メタルトキ相當利率ヲ以テ貸付
スルコト

慈惠救濟資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ慈惠救濟資金ニ編入ス

第四條 慈惠救濟資金ヨリ生スル利子ハ縣下ニ於テ慈惠救濟ノ
事業ヲ起シ其ノ基礎ノ確實ナリト認ムルモノニ對シテハ縣會

ノ議決ヲ經テ之ヲ補助スルコトアルヘシ

第五條 慈惠救濟資金ハ年々縣會ノ議決ヲ以テ縣費ヨリ相當ノ

金額ヲ蓄積シ之ヲ増殖スルモノトス

第六條 慈惠救濟ノ資ニ充ツルノ目的ヲ以テ金員若ハ有價証券

ヲ寄贈スルモノアルトキハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ採納シ

資金ニ編入スルモノトス

第七條 慈惠救濟資金ノ豫算ハ毎年度縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ定
ム

○ 行旅病人及行旅死亡人取扱手續

明治三十五年七月
訓令 第三四號

第一條 市町村長ニ於テ行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救
護若ハ取扱ヲ爲スハ明治三十二年法律第九十三號行旅病人及

慈惠救濟資金管理規程
行旅病人及行旅死亡人取扱手續

行旅死亡人取扱法及同年内務省令第二十三號同第二十四號ニ依ルノ外尙本手續ニ依ルヘシ

第二條 市町村長ニ於テ外國人タル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ直ニ知事ニ報告スヘシ其ノ救護ヲ止メタルトキ亦同シ

一 國籍帝國ノ住所居所職業氏名年齢人相等本人ノ認識ニ必要ナル事項

一 扶養義務者親屬若ハ相續人ノ住所居所氏名

一 旅行ノ目的并經歷

一 病名并病況

(醫師診斷書又ハ檢案証ノ寫ヲ添ユルモ妨ナシ)

一 遺留品及其ノ見積價格

一 救護又ハ取扱ノ顛末

第三條 本縣ニ於テ引取ルヘキ被救護者アルトキハ救護地市町

村長ヲシテ引續事務ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條 行旅死亡人ノ遺留ニ係ル有價証券及見積價格五圓未満ノ物件ハ市町村長ニ於テ隨意ノ契約ヲ以テ賣却スルコトヲ得其ノ見積價格五圓以上ニ涉ルトキハ競争入札ニ附シ高價ノ者ニ賣却スヘシ

第五條 行旅病人及其ノ同伴者ノ救護ヲ公私ノ施設又ハ私人ニ委託スル場合ニ於ケル費用ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

行旅病人(大人滿十三年以上) 一人一日ノ諸費 金貳拾參錢以內

同 (小人滿十三年未滿) 一人一日ノ諸費 金拾七錢以內

同 同伴者(大人) 一人一日ノ諸費 金拾八錢以內

同 (小人) 一人一日ノ諸費 金拾貳錢以內

但シ諸費ノ内ニハ食料、寢具損料、薪炭油ハ借家料ヲ包含ス

行旅病人及行旅死亡人取扱手續

第六條

行旅病人及行旅死亡人并同伴者ノ救護若ハ取扱ニ要ス
ヘキ種目及費用ノ限度ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 診察料

一回ニ付金貳拾錢以內

二 診斷書料

一通ニ付金拾錢以內

三 手術料

實費

四 醫師旅費

鐵道賃一哩ニ付金參錢

船賃一海里ニ付金四錢

車馬賃一里ニ付金拾五錢

宿泊料一夜ニ付金壹圓拾錢

日當一日ニ付六拾錢

但シ支給ノ方法ハ明治四十三年六月勅令第二百七十四

號內國旅費規則ニ依ル

五 藥價

一日金八錢以內

但シ特ニ高價ノ藥品ヲ必要トスルトキハ一日金十二錢迄ニ

上スルコトヲ得

六 療養ニ要スル必要品費

實費

但シ醫師ニ於テ必要ト認メ指示シタル場合ニ限ル

七 食料

一晝夜
三食

一食ニ付金五錢以內

但シ醫師ニ於テ特ニ滋養品ヲ必要トスルトキハ一日金拾八
錢迄ニ上スルコトヲ得

八 看護人費

一晝夜

一人金貳拾五錢以內

但シ重症患者ニシテ醫師ニ於テ必要ト認メ指示シタル場合
ニ限ル

九 被服料

夏金五拾錢以內
冬金壹圓以內

但シ着服ナキモノ又ハ着服スルモ實際防寒ニ堪スト認ムル
モノニ限ル

行旅病人及行旅死亡人取扱手續

十 寢具損料 一晝夜 金五錢以內

十一 薪炭油 同 金五錢以內

但シ病人死亡人ノ爲特ニ要スルトキニ限ル

十二 入院料 實費

但シ其ノ病院所定ノ最低價ニ依ル

十三 借家料 一日ニ付金五錢以內

十四 小屋掛料 一棟ニ付金壹圓以內

但シ借受クヘキ家屋ナキ場合ニ限ル

十五 護送及運搬ニ關スル諸費

一 護送費 內 譯

行旅病人發病地ヨリ救護所迄ノ費用金五拾錢以內

行旅病人救護地ヨリ扶養義務者若ハ家族へ送還費用汽
車汽船ハ末等賃車駕ハ實費宿泊料(書飯共)金參拾五錢

以內藥價ハ第五號ニ依ル

附添人ヲ要セントキハ汽車汽船ハ末等賃車駕ハ實費日

當一日金參拾錢宿泊料一夜金七拾錢

二 運搬費 人夫一人金參拾錢以內

但シ器具等切一ノ運搬費用ヲ包含ス

十六 死體檢案料 金五拾錢以內

十七 同檢案書料 金貳拾五錢以內

十八 假土葬又ハ火葬諸費金壹圓以內

但シ棺桶擔捧、菴繩、墓標等一式

十九 死體運搬費 (穴堀共) 人足二人一人金參拾五錢以內

二十 死體番人費 一晝夜 金參拾錢以內

廿一 公告料 實費

但シ官報新聞紙ノ内一種一回一日ヲ限ル

第七條 第五條及第六條ニ規定セル費用ノ範圍又ハ限度ヲ超ユ

行旅病人及行旅死亡人取扱手續

ルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ指揮ヲ受クヘシ

第六條各號列記外ノ種目ヲ要スルトキ亦同シ

第八條 第三條ノ場合ニ於ケル救護費用ノ範圍限度等ニ關シテ

ハ第五條第七條ヲ準用ス

第九條 救護ニ要シタル費用ノ辨償ヲ被救護者若ハ扶養義務者

又ハ本縣ニ請求スルトキハ左ノ書式ニ依ルヘシ

前項ノ辨償ヲ本縣ニ請求スルトキハ之ニ關スル往復書類ノ寫

及戸籍謄本ヲ添付スヘシ

行旅病人(行旅死亡人)同伴者救護費用請求書

(住所居所又ハ氏名不詳)男(女)

府縣郡市町村字番地族籍

氏 名

生 年 月

一金何程

内
 金何程 本人所持金(遺留物件賣却代金)ヲ以テ充用
 差引
 金何程 不足額
 右ハ何々ニ付(事項明瞭ニ記載スルヲ要ス)前書ノ金額辨償相成
 度費用計算書相添ヘ此段請求候也

年 月 日 市町村長 氏 名 印

行旅病人(行旅死亡人)同伴者氏名(住所氏名不詳)救護費用
計算書

一金何程 本人所持金(遺留物件賣却代金)ヲ以テ充用高
 一金何程 繰 替 金

合計金何程 内 譯

行旅病人及行旅死亡人取扱手

行旅病人及行旅死亡人取扱手續

三五八

種目	員	數	單價	金	員
診察料	何	度	一度何程	金何程	
藥價	何 計何日間	一日ニ付何程	金何程		
食料	何 何日何晝食ヨリ何月何日 何食迄計何十食	一食何程	金何程		
何	何				
何々					

右之通相違無之候也

年月日

市町村長 氏

名 印

(備考) 救護費用計算書ニハ正當領收証ヲ添付スヘシ

行旅死亡人遺留物件賣却代金明細書

金何程

内 譯

品目	員	數	單價	金	員
何	何				
何	何				

外遺金何程

紙幣 (銀貨) 銅貨 何程

合計金何程

右ハ府縣郡市町村氏名(又ハ住所氏名不詳男女)遺留物件賣却代金前書之通相違無之候也

年月日

市町村長 氏

名 印

宛

(備考) 遺留物件壹部代金明細書ニハ其ノ代金上納証書(買

行旅病人及行旅死亡人取扱手續

三五九

受入ヨリ市町村長ニ差出シタル書類ヲ添付スヘシ

○棄兒養育米代窮民恤救米代給與概則

明治二十四年四月
四國丙第一九一號

第一條 給與者臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 受給者住所姓名出生年月日米額及種類 老衰、癩疾幼弱
棄兒疾病

二 給與ノ原因 指令ノ年
月日期限 及起廢ノ事由

第二條 給與者ヘ支給スヘキ米代ハ左ノ期日内トス

一 年給者ハ四期ニ分チ三箇月分其ノ首月 四月、七月ノ上旬ニ
十月、一月ノ上旬ニ 於テ下付ス

二 日給ノ者ハ每一箇月分ヲ其ノ上旬ニ於テ下付ス

第三條 新規給與ノ者ハ指令ノ當日ヨリ日割ヲ以テ支給スヘシ

其ノ算出方左ノ如シ

一 年給ノ者ハ一箇年ノ米額十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ
一箇月或ハ二箇月分ト日割當日ノ 支給日數ニ應スル米
額ヲ合セテ算出ス但シ日割當月分ハ一箇月米額ニ其ノ支
給スヘキ日數ヲ乘シ其ノ月全日數ヲ以テ除スルヲ算法ト
ス

二 前項ノ算出ニテ得タル米額ニ石代金ヲ乘シタルモノヲ則
チ支給額トス

三 米額ハ渾テタオマテ算出シ支給額ノ定リタルトキ四捨五
入ノ法ヲ以テ合位ニ止メ金額ハ厘位ニ止ムヘシ

第四條 給與スヘキ石代金ヲ得ルニハ支給スヘキ月ノ前々月其
ノ郡内下米平均相場ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ四捨五入ノ
法ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五條 従前給與ノ者左記ノ如キ給與スヘキ事項ノ消滅シタル

棄兒養育米代窮民恤救米代給與概則

トキハ停止シ已ニ成規ニ依リ交付濟ノ分ハ返納セシムルニ及
ハス但シ本條ノ異動ハ報告例ニ依リ報告スヘキモノトス

一 本人死亡シタルトキ

二 相續人ヲ設ケタルトキ若ハ他ニ相當ノ救助者出來タルト
キ

三 疾病平癒シタルトキ又ハ家族内ノ逃亡者復歸シタル等總
テ指令ノ期限ニ至ルトキ

第六條

町村長若ハ資産相應ノ者ニ托シ受給者ヨリ代理受取ヲ
望ムモノアルトキハ其ノ届出ヲ爲サシメ代理ノ資格ヲ認メ仕
拂ヲ爲スモ妨ケナシ

● 恤救取扱心得ニ關スル件

明治十六年八月
丙 第 八二號

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニシテ親戚郷黨ニ於テ其力既ニ盡ク

ルノ場合ニ至リ始テ官ノ救護アルヘキ筈ニ有之然ルヲ漫ニ老幼
癯疾々病ノ名ヲ以テ救助ヲ申立ル様ノ義有之候テハ政府恤救ノ
旨趣ニ垂戻シ不都合ニ候條郡(戶)長ニ於テ一層注意シ右様之儀
無之様致スヘシ因テ今般恤救取扱心得書左之通相定候條自今右
ニ準據可取扱此旨相達候事

恤救取扱心得書

第一條

獨身ノ者老衰 七十年以上 幼弱 十三年以下 癯疾々病等ニテ産業ヲ
營ム能ハス事實無産赤貧ニシテ他ニ保育スル者ナキ無告ノ窮
民ハ恤救ヲ仰キ得ヘキモノトス

但老衰及癯疾等ノ者ト雖モ其業ニヨリテハ生産ノ道相立ツ
ヘキ者ナシトセサレハ實際不得已者ニ限ルヘシ

第二條

恤救ヲ仰キ得ヘキ者ト雖モ可成其町村内ニ於テ保給シ
官ノ救助ヲ仰カサルヲ以テ本旨トスヘシ

救恤取扱心得ニ關スル件

第三條 前條町村内ニ於テ保給スル者若シ其手當不足ニシテ幾分カ官ノ救助ヲ仰カサレハ保給シ能ハサルトキハ其事由及救助米ノ石數等詳細記載申出ツヘシ

第四條 老幼癡疾々病等ノ者獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下タレハ獨身ニ準シ本人ヘノミ給與シ亦餘ノ家人ニシテ同様老幼癡疾疾病等難捨置情故アレハ其ノ者共ヘモ救與スルコトアルヘシ然レトモ一家數人ノ救助ニ及フトキハ成ヘク減少ノ見込ヲ立テ各自救助ヲ仰カサル様注意スヘシ

第五條 疾病等ニテ救助ヲ受クル者ハ全快ノ期ヲ調査シ荏苒給與ヲ受クル等ノ事ナキ様常ニ注意スヘシ

第六條 恤救願書ヲ進達シ又ハ具狀スル時ハ該家戸籍ノ謄本及老衰癡疾々病ナレハ醫師ノ診斷書相添左ノ廉々精密取調フヘシ

一 恤救ヲ仰ク者ノ住所町村地番族籍姓名年齢

一 老幼癡疾等ニテ自存スル能ハサル事由

一 自宅又ハ借家之別

一 財産ノ有其無額

一 嘗テ親戚郷黨ヨリ救助シタル者ハ其次第及年月日等

○水難救護事務規程

明治三十四年七月
訓令 第三八號

一 水難救護法第六條第一項ニ依リ市町村長ニ於テ救護ノ爲メ使丁ヲ以テ人ヲ招集セントスル時ハ第一號書式ノ招集票ヲ被召集者ニ又物件ヲ徵用セントスル時ハ第三號書式ノ徵用票ヲ被徵用者ニ交付スヘシ

一 法第八條第一項ニ依リ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者

恤救取扱心得ニ關スル件
水難救護事務規程

アリト認め搜索又ハ差押ヲ爲シタル時ハ第三號書式ニ依リ
調書ヲ作成スヘシ

三

左ノ場合ニ於テハ第四號書式ニ依リ其事項ヲ錄取スヘシ

一

法第十條第三項ニ依リ船難報告書ノ事實ヲ審査スル爲メ

船員旅客ニ對シ訊問シタルトキ

二

法第十四條第一項ニ依リ救護費用ノ金額算出ノ事由ヲ口

頭申立ヲ爲シタルトキ

三

法第三十八條第一項及第三項ニ依リ漂流物又ハ沈沒品ノ

所有者若クハ拾得者ニ於テ物件ノ引渡ヲ受クルノ意思ナ

キヲ口頭表示シタルトキ

四

水難救護法取扱手續第十三條ニ依リ漂流物又ハ沈沒品ノ

存在セシ狀況ヲ訊問シタルトキ

四

法第十條第二項ニ依リ船難報告書ノ事實相當ト認め認證ヲ

與フル時ハ第五號書式ニ依リ朱書スヘシ

五

救護シタル物件ニシテ法第十一條第二項ニ依リ公賣ヲ爲サ
ントスル時ハ第六號書式ニ依リ船長又ハ船舶所有者ニ告知
スヘシ

六

法第十六條第三項ニ依リ金錢又ハ其他ノ物件ヲ引渡シタル
トキハ船長ヨリ領收書ヲ徴スヘシ

七

法第十六條第四項ニ依リ保管ニ係ル船舶又ハ積荷ヲ船長ニ
於テ賣却抵當又ハ質入セントスル時ハ物件ノ種類名稱數量
賣却抵當先若クハ質入先及其事由ヲ詳記シタル書類ヲ徴シ

審査ノ上許否スヘシ

八

法第十一條第一項第十七條第一項第二十八條第三項及第三
十條第二項ニ依リ保管ニ係ル物件ヲ公賣セントスル時ハ七
日間(物件久シキニ耐ヘ難キカ又ハ著シク
其價格ヲ減スル虞アルモノヲ除ク)最寄揭示場ニ公告スヘ
シ

但貴重ノ物品ハ尙新聞紙ニ公告スヘシ

水難救護事務規程

- 九 法第十九條ニ依リ救護費用全部ノ支給若クハ一部補給ヲ受ケントスル者ハ救護費用ノ支出ニ係ル領收書公賣入札其他證憑トナルヘキ書類ヲ請求書ニ添ヘ當廳ヘ差出スヘシ
- 十 漂流物又ハ沈沒品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七號書式ニ依リ領收書ヲ拾得者ニ交付シ法第二十五條第二項ニ依リ十四日間最寄揭示場ニ公告スヘシ
但貴重品又ハ高價ノ物品ニ係ルトキハ尙時價ニ應シ適宜新聞紙ニ公告スヘシ
- 十一 法第二十七條第三項ニ依リ漂流物又ハ沈沒品ノ價格ヲ評價セシメタル時ハ鑑定書ヲ徴スヘシ
- 十二 漂流物又ハ沈沒品ノ一部ヲ所有者ニ還付シタルトキハ拾得者ニ交付シタル領收書ニ其旨朱記シ認印ノ上再ヒ交付スヘシ
- 十三 法第二十八條第三項第三十條第二項ニ依リ國庫ノ取得ト

ナルヘキ殘金又ハ補給ヲ受クヘキ不足ヲ生シタル時ハ水難救護法取扱手續第十六條ノ計算書ニ殘餘若クハ不足ヲ生シタル明細書領收書公賣入札其他證憑トナルヘキ書類ヲ添ヘ當廳ヘ差出スヘシ

- 十四 水難救護法取扱手續第十八條ニ依リ處分ノ際急速ヲ要スル場合ニ在リテハ最寄稅關又ハ稅關支署ニ急報シ且ツ稅關官吏等直ニ現場ニ臨ミ難キトキハ稅關又ハ支署ノ協議ニ應シ便宜ノ取扱ヲ爲スヘシ (書式ハ省略ス)

○ 下士兵卒家族救助令取扱手續

明治三十七年五月
訓令 第二八號

- 第一條 市町村長ニ於テ下士兵卒家族救助令施行規則第一條第一項ノ救助願ヲ受ケタルトキハ一家 (戶主及民法第七百三十二條ノ家族並ニ同居者ヲ包含ス)

水難救護事務規程
下士兵卒家族救助令取扱手續

ノ資産ノ概額及各人ノ勞役程度直接國稅及縣稅戶數割ノ各納額、一家外扶養義務者中扶助シ得ヘキ者ノ有無、個人若ハ團體等ヨリ受クル救護金品ノ數量等ヲ調査シ第一號様式ノ調査書及戶籍謄本ヲ添ヘ町村長ハ郡長ヲ經由シ市長ハ直ニ知事ニ進達スヘシ

第二條 救助許否ノ指令ハ郡市長ニ送付ス郡長ハ町村長ヲ經由シ市長ハ直ニ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三條 救助金ハ一ケ年ヲ四期ニ分チ六月、九月、十二月、三月ニ於テ前三ケ月分ヲ下附スルモノトス

第四條 市町村長ハ前條救助金下附ノ月ニ於テ第二號様式ニ依リ其ノ市町村內受救者ノ救助金下附額調査書ヲ作り町村長ハ其ノ月五日迄ニ郡長ニ市長ハ全十日迄ニ知事ニ差出シ郡長ハ其ノ郡內各町村ヲ取纏メ全十日迄ニ知事ニ差出スヘシ

第五條 救助金ハ郡ニ在リテハ郡長ニ現金前渡ヲ爲シ受救者ニ

交付セシメ市ニ在リテハ仕拂命令又ハ仕拂通知書ヲ以テ市長ヲ經由シ受救者ニ交付スルモノトス

郡長前項ノ現金ヲ受救者ニ交付スルトキハ第三號様式ノ領收證書ヲ徵スヘシ、市長ニ於テ仕拂命令ヲ受救者ニ交付シタルトキ又全シ

第六條 市町村長若ハ其ノ指名ヲ受ケタル區長ハ常ニ受救者ノ保護ニ注意シ救助金ハ生業ノ資料病者ノ施療其ノ他生活上必要費ノ外ニ之ヲ費消セシムヘカラス

第七條 救助金ハ目下ノ急需ニ充ツルモノ、外受救者ヲシテ銀行郵便貯金若ハ資産ヲ有シ身元確實ナル者ニ預ケ入レシメ之ヲ引出シヲ要スルトキハ市町村長若ハ其ノ指名ヲ受ケタル區長ノ承認ヲ受ケシムヘシ

第八條 受救者需用ノ物品ハ市町村長若ハ其ノ指名ヲ受ケタル區長ニ於テ其ノ必要ヲ認メタル上可成受救者ニ代テ購入シ現品ヲ交付スルノ方法ヲ執ルヘシ

第九條 市町村長若ハ其ノ指名ヲ受ケタル區長ハ第四號様式ノ

預金引出承認簿ヲ製シ第七條ニ依リ承認ヲ爲シタル都度之ヲ

記入スヘシ

預金引出承認簿ハ受救者本縣内他市町村ニ住所ヲ轉シタルト

キハ其ノ轉住地市町村長ニ引繼クヘシ

第十條 市町村長ハ第四條ノ救助金下附額調書提出ト同時ニ左

ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

一 下士兵卒死亡若ハ生死不分明トナリ又ハ傷痍若ハ疾病ニ

依リ召集ヲ解除セラレ若ハ除隊セラレタル通知ヲ受ケタ

ルトキ

二 家族中死亡者又ハ重病者癱疾者ヲ生シタルトキ及疾病者

治癒シタルトキ

三 召集又ハ現役延期中嫡出子出生シタルトキ

四 家族中其ノ家ヲ去リ又ハ受救者中自營ノ途ヲ得タル者ア

リシトキ

五 個人又ハ團體等ヨリ新ニ金品ノ繼續救護ヲ受クルニ至リ

タルトキ又ハ廢止セラレタルトキ

六 縣稅戶數割納額一戸平均額以下ノ者一戸平均額以上ニ上

リ又同五分以下ノ者五分以上ニ上リタルトキ若ハ五分以

上ノ者五分以下ニ下リタルトキ

第十一條 受救者住所ヲ轉シタルトキ又ハ復員令ニ依リ下士兵

卒召集ヲ解除セラレ若ハ除隊セラレタル通知ヲ受ケタルキハ

其ノ時々町村長ハ郡長ヲ經由シ市長ハ直ニ知事ニ報告スヘシ

第十二條 知事ハ官吏ヲ派遣シ受救者生活ノ狀況ヲ視察セシメ

及第九條ノ預金引出承認簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ

(第一號様式)

家族生計調書

何郡(市)何町(村)大字番地

下士兵卒家族救助令取扱手續

一 資産概額

官職等級 氏 名
金何拾何圓何拾錢

内譯

一 何債券

券面何圓此價額何圓

一 預金

金何拾何圓何拾錢

一 田地

何反何畝何步此價額金何拾圓

一 直接國稅納額

金何圓何拾何錢何厘

一 縣稅戶數割納額

金何拾何錢何厘

一 某、某 壯健ニシテ家業ニ從事シ得

一 某 老人ナルモ常人ノ何分位ハ家業ニ從事シ得

(幼年ナルモ常)

人ノ何分位ハ家業ニ從事シ得

一 某 重病者ニシテ常ニ病葺ヲ離レス(癱疾ニシテ僅ニ自用ヲ便シ得)(何々)

不具者)

一 某

出稼中ニシテ一ケ年(一ケ月)ニ金何圓ヲ送り越ス

(所在不明)(入監中)

一 家族外ノ扶養義務者

何郡(市)町(村)大字番地何ノ某資産凡金圓

一 個人及團體ヨリ受クル金品

何會ヨリ一ケ年(一ケ月)金(品)何程ヲ受ク(何ノ某ヨリ一ケ年)(一ケ月)金(品)何程ヲ受ク)

右之通ニ候也

大正 年 月 日

市(町)(村)長 氏

名印

(第二號様式)

救助金下附額調書

一金何圓何拾錢

但下士兵卒家族救助金明治何年何月ヨリ何月迄ノ分

内譯

金

額 住

所 氏

名

下士兵卒家族救助令取扱手續

下士兵卒家族救助令取扱手續

何圓何拾錢	何郡何町(村)大字番地	何ノ誰渡分
、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、	、、、、

右ノ通相違無之候也

大正 年 月 日

市(町)(村)長 氏

名印

知事宛

(第三號様式) 甲

領收証

一金何圓何拾錢也 月額何圓何拾錢

但下士兵卒家族救助金大正何年何月ヨリ何月迄ノ分

右正ニ領收候也

大正 年 月 日

何縣何郡(市)何町(村)番地

何之誰印

仕拂命令官知事宛(現金前渡ヲ受ケタル官吏郡長宛)
(第二號様式) 乙 (數名ノ代理者ニ提出セシムル領收証ノ様式)

領收証

一金何圓何拾錢

但下士兵卒家族救助金大正何年何月ヨリ何月迄ノ分

支給金額	月	額	住	所	氏	名
三、〇〇〇	金壹圓		何町村	何番地	何之誰	
四、五〇〇	金壹圓九拾		、、、、	、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、		、、、、	、、、、	、、、、	、、、、

右正ニ領收候也

大正 年 月 日

下士兵卒家族救助令取扱手續

下士兵卒家族救助會取扱手續
癩兵及軍人遺家族扶助方法

何ノ誰外何名代理何村何番地

何之誰印

仕部命令官知事宛(現金前渡ヲ受ケタル官吏郡長宛)

癩兵及軍人遺家族扶助方法

明治十五年二月
告示 第二七號

第一條 本方法ニ依リ扶助ヲ受クヘキ者ハ本縣内ニ住所ヲ有シ

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一 明治三十七八年戰役ニ於テ死歿シタル下士卒ノ遺族ニシテ生計困難ナル者
- 二 明治三十七八年戰役ニ於テ癩兵トナリタル下士卒及其ノ家族又ハ癩兵カ其ノ受ケタル傷痍疾病ニ因リ死亡シタル場合ニ於ケル遺族ニシテ生計困難ナル者

本條ニ遺族又ハ家族ト稱スルハ死歿若ハ免役ノ當時ヨリ引續
キ死歿若ハ免役者ト同一戸籍内ニ在ル直系尊族及妻子ヲ謂フ
但シ死歿若ハ免役以後ニ出生シタル嫡出子ハ死歿若ハ免役ノ
當時ヨリ同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第二條 扶助ハ左ノ方法ニ依ル

- 一 生業資金給與
生業資本若ハ生業ニ必要ナル器具又ハ代料トシテ一戸ニ付
金參拾圓以内ヲ給與ス但シ老幼癩疾又ハ不具疾病ノ爲一定
ノ生業ニ從事スルコト能ハサル者ニハ一人ニ付一箇年金拾
貳圓以内ヲ給與スルコトアルヘシ
- 二 學用品費給與
癩兵及死歿軍人ノ子ニシテ尋常小學校在學中ノ貧困ナル兒
童一人ニ付一箇年金五圓以内ヲ其ノ兒童ノ保護者ニ給與ス

第三條 癩兵及死歿軍人ノ子ニシテ身體強壯人物俊秀ナルモ貧
癩兵及軍人遺家族扶助方法